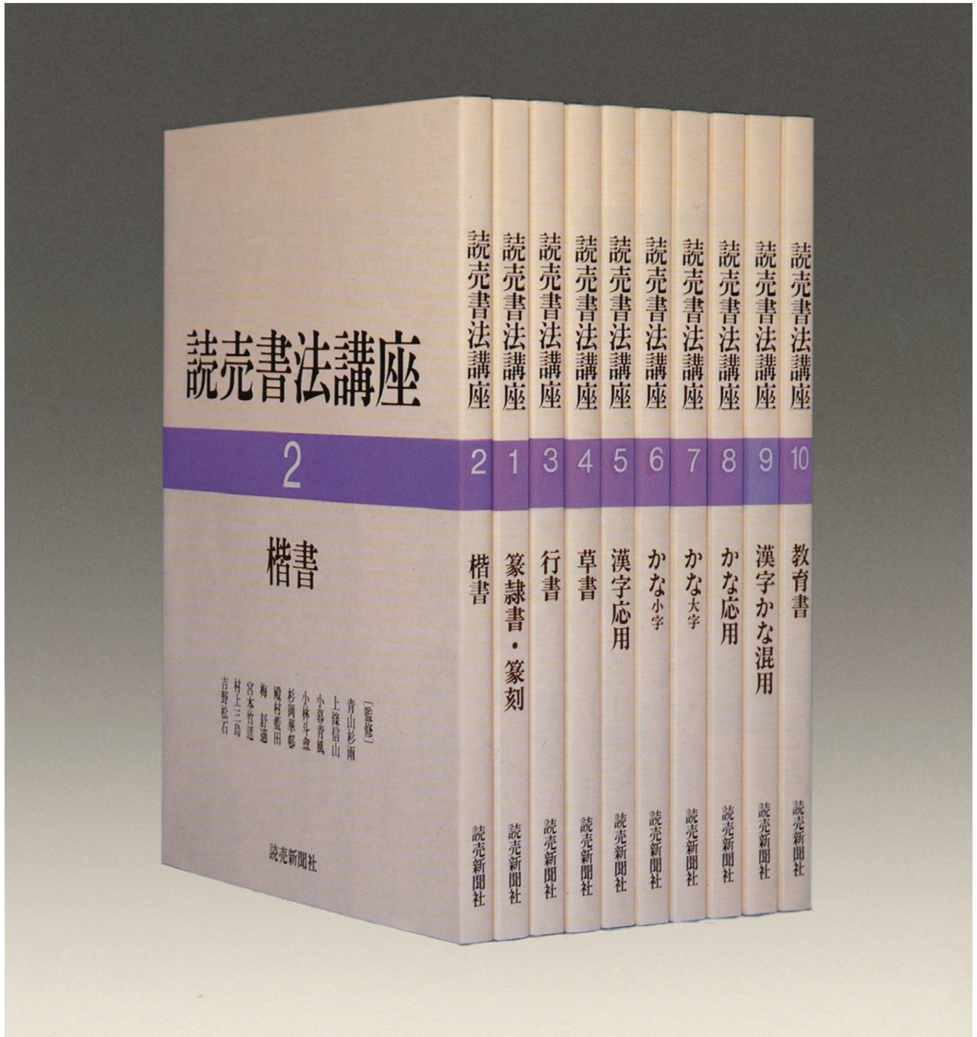
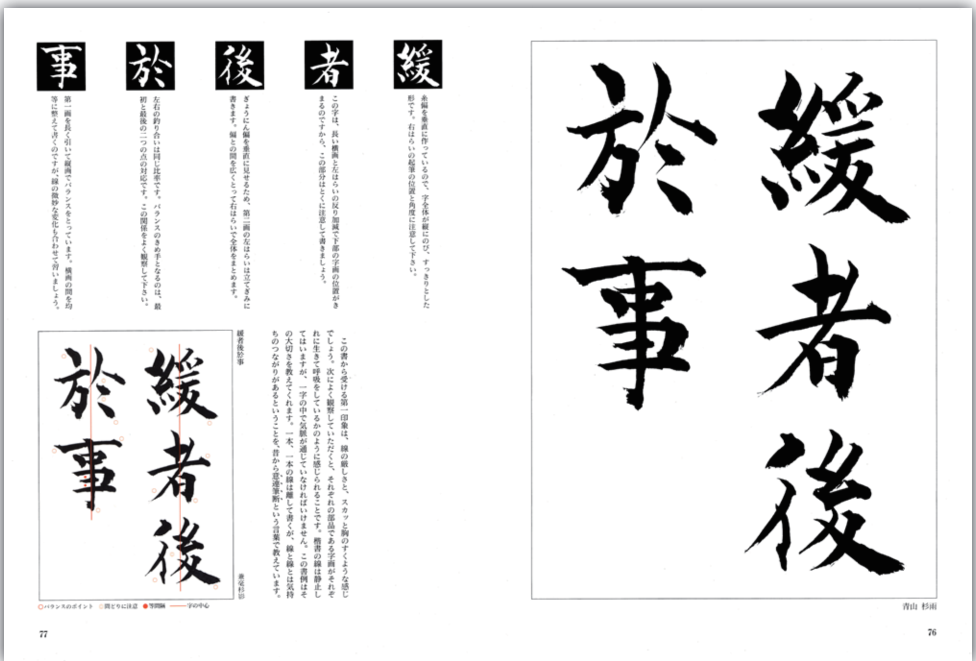
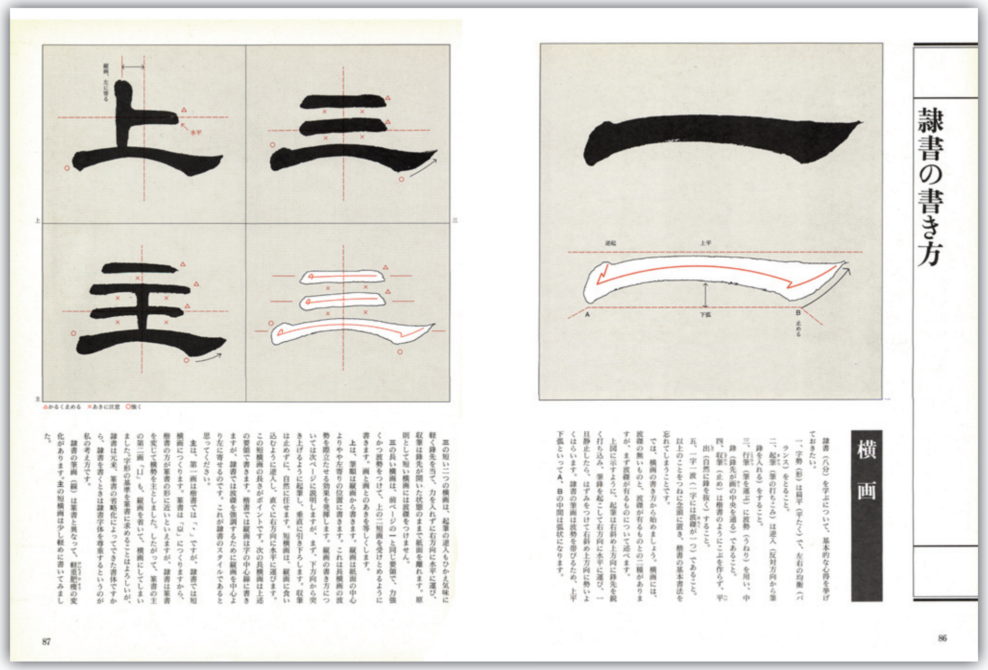


読売書法講座（全十巻）1988〜1993

大熊が道吉デザイン研究室で修行していたときに担当になり、フリーランスになった後も大熊が担当することになった。全十巻を揃えるのに5年かかった。

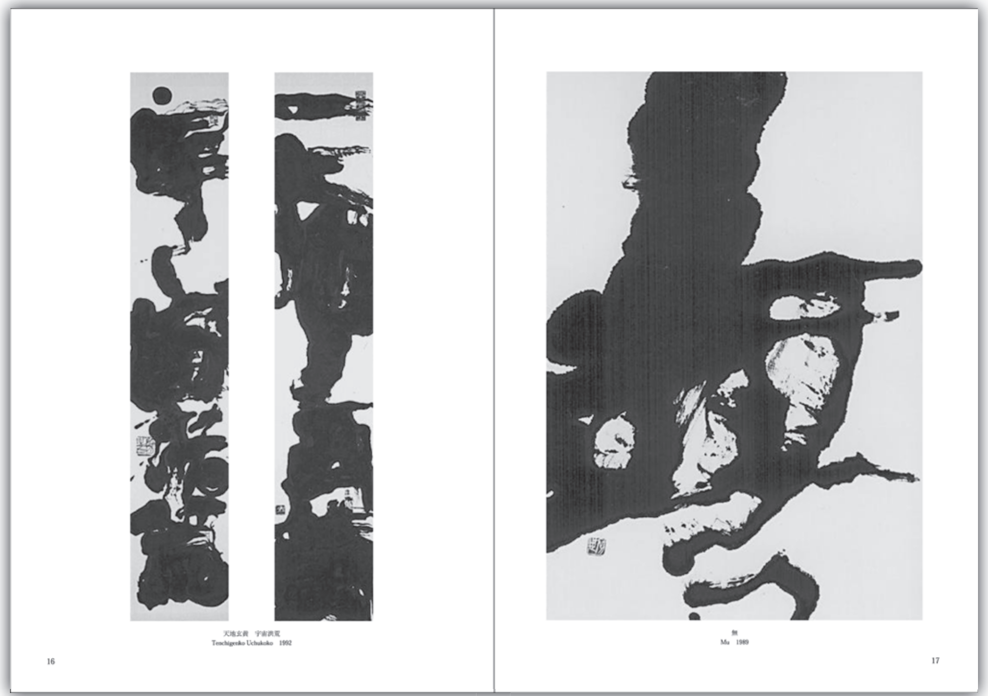


「楷書」の青山杉雨さんのページ。半紙の比率の枠のちょうど良いところに字を入れるのが意外にむずかしい



「篆書・隷書」の隷書の書き方のページ。書は谷村憙斎さん、赤の骨書きは大熊の手書き

組版設計・本文デザイン・装釘：道吉剛 / 大熊肇（tonan）



矢島峰月の書　1995　芸術新聞社

尊敬する書家・矢島峰月さんの作品集。パリで行われた個展にも同行させていただいた。
石川九楊さんが書評を寄せている。

編集・組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）　テキスト入力・校正：中妻祐子（tonan）

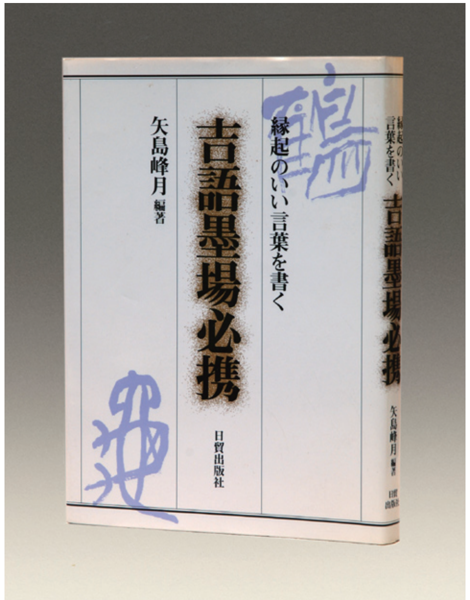
※昔のデータなのでOCFフォントの再現が忠実ではありません

らくらく筆ぺん入門　矢島峰月著　日貿出版社　1988

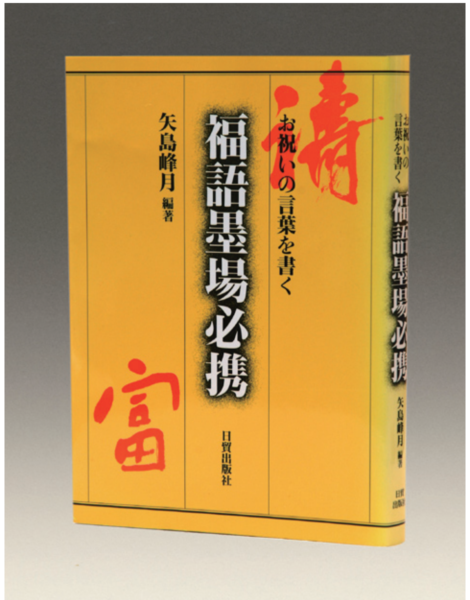
20年経っても売れ続けているロングセラー。

装釘：大熊肇（tonan）

「篆刻墨場必携」 矢島峰月編著　日貿出版社　1990
装釘：大熊肇（tonan）



「吉語墨場必携」 矢島峰月編著　日貿出版社　1995
装釘：大熊肇（tonan）



「福語墨場必携」 矢島峰月編著　日貿出版社　2001
装釘：大熊肇（tonan）

「禅語墨場必携」 矢島峰月編著　日貿出版社　2004
装釘：大熊肇（tonan）

毛筆書鑑 象　矢島峰月書　A&P コーディネータージャパン　1997

コンテンツプロデューサーの飯島敬一さんと、筆文字画像の素材集を企画し、A&P コーディネータージャパン（現・デザインエクスチェンジ）の社長の藤井さんに直接売り込んだ。
世界初の筆文字素材集である。だが時代が早すぎたのかあまり売れなかった。

企画・構成・デザイン：大熊肇（tonan）

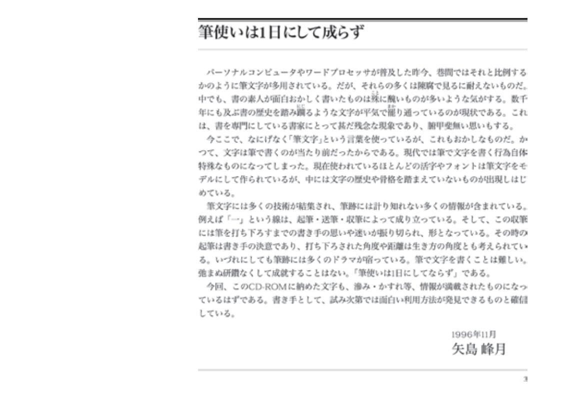
CD-ROMの使用方法

毛筆書鑑「象」はMacintoshとWindowsの両環境でご利用いただける書体辞典・ロイヤリティーフリー素材集です。各種ファイル形式のデータがディスクA、ディスクBの2枚のディスクに収録されています。下記のファイル形式を扱えるアプリケーション上でご使用ください。

Macintoshコピー可能データ		
Lサイズ	JPEG 2000×2000〜3200×3500ppi（350dpi）	★ディスクA
Mサイズ	PICT 640×480ppi（72dpi）	★ディスクA
Windowsコピー可能データ		
Lサイズ	JPEG 2000×2000〜3200×3500ppi（350dpi）	★ディスクA
Mサイズ	BMP 640×480ppi（72dpi）	★ディスクB

（Lサイズは文字によってサイズが異なります）

5



筆使いは1日にして成らず

パーソナルコンピュータやワードプロセッサが普及した昨今、巷間ではそれと比例するかのように筆文字が多用されている。だが、それらの多くは陳腐で見るに耐えないものだ。中でも、書の素人が面白おかしく書いたものは殊に醜いものが多いような気がする。数千年にも及ぶ書の歴史を踏み躙るような文字が平気で罷り通っているのが現状である。これは、書を専門にしている書家にとって甚だ残念な現象であり、腑甲斐無い思いもする。

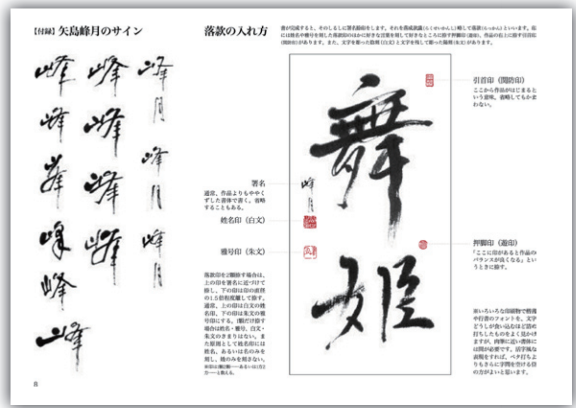
今ここで、なにげなく「筆文字」という言葉を使っているが、これもおかしなものだ。かつて、文字は筆で書くのが当たり前だったからである。現代では筆で文字を書く行為自体特殊なものになってしまった。現在使われているほとんどの活字やフォントは筆文字をモデルにして作られているが、中には文字の歴史や骨格を踏まえていないものが出現しはじめている。

筆文字には多くの技術が結集され、筆跡には計り知れない多くの情報が含まれている。例えば「一」という線は、起筆・送筆・収筆によって成り立っている。そして、この収筆には筆を打ち下ろすまでの書き手の思いや迷いが振り切られ、形となっている。その時の起筆は書き手の決意であり、打ち下ろされた角度や距離は生き方の角度とも考えられている。いづれにしても筆跡には多くのドラマが宿っている。筆で文字を書くことは難しい。弛まぬ研鑽なくして成就することはない。「筆使いは1日にしてならず」である。

今回、このCD-ROMに納めた文字も、滲み・かすれ等、情報が満載されたものになっているはずである。書き手として、試み次第では面白い利用方法が発見できるものと確信している。

1996年11月
矢島 峰月

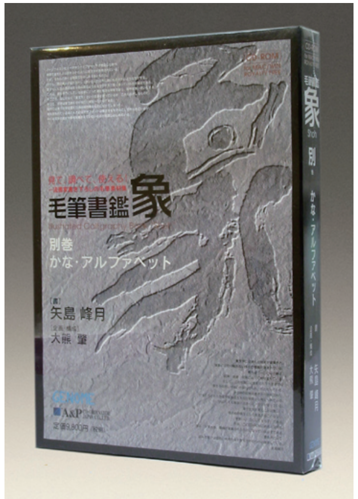
3



【付録】矢島峰月のサイン

落款の入れ方

※昔のデータなのでOCFフォントの再現が忠実ではありません



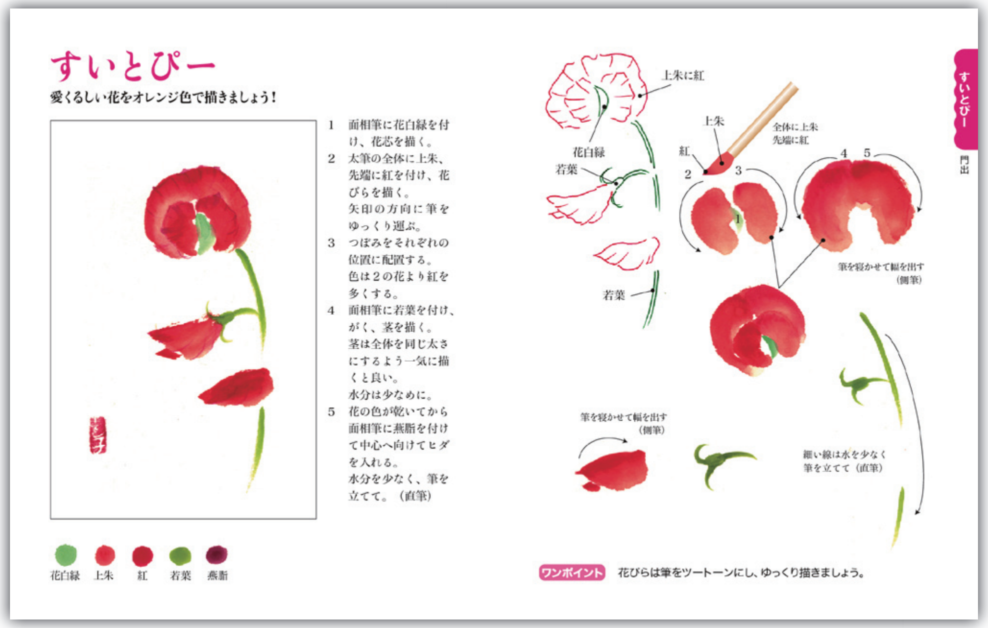
「毛筆書鑑 象 別巻」 矢島峰月書
A&P コーディネータージャパン　1997

企画・構成・デザイン：大熊肇（tonan）

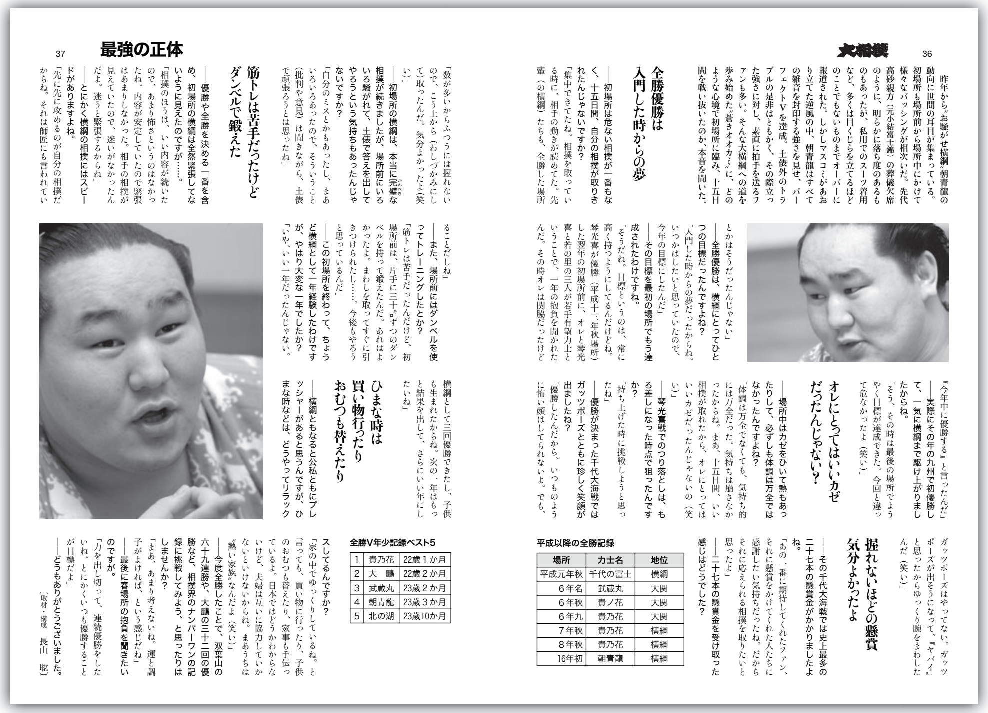
花のおたより　菅田とも子　誠文堂新光社　2003

日本画家の菅田とも子さんとはじめてお会いしたとき、何冊か著書を拝見して、「絵はいいけど、デザインがひどいですね」と失礼なことを言ってしまった。そうしたら、「そうなのよ、今度本を出すときは大熊さんデザインしてくれる？」とおっしゃった。しばらくしたら、「本出すからデザインお願いね」というわけでこの本を拵えることに。

組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）

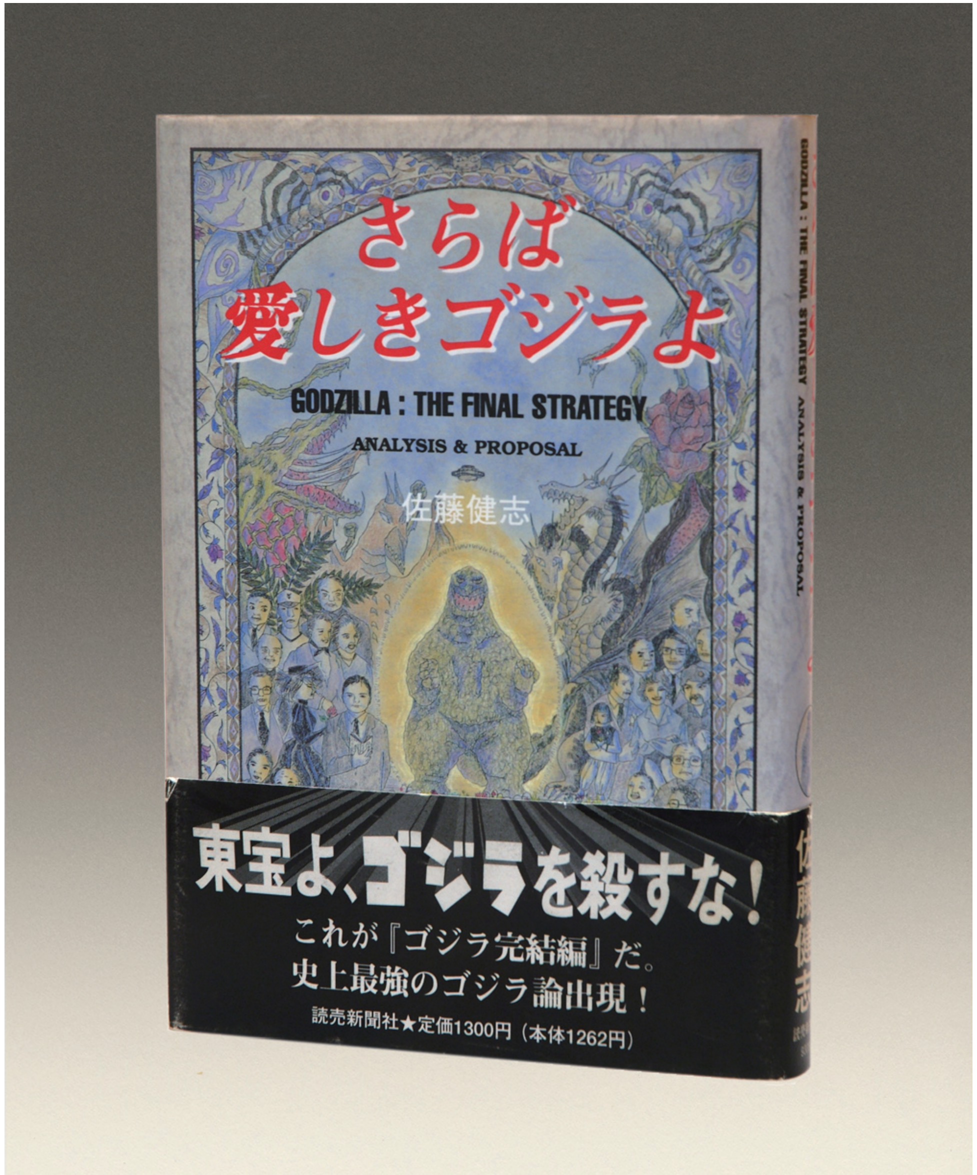


好評だったので、続編が４冊できました。



大相撲　読売新聞社

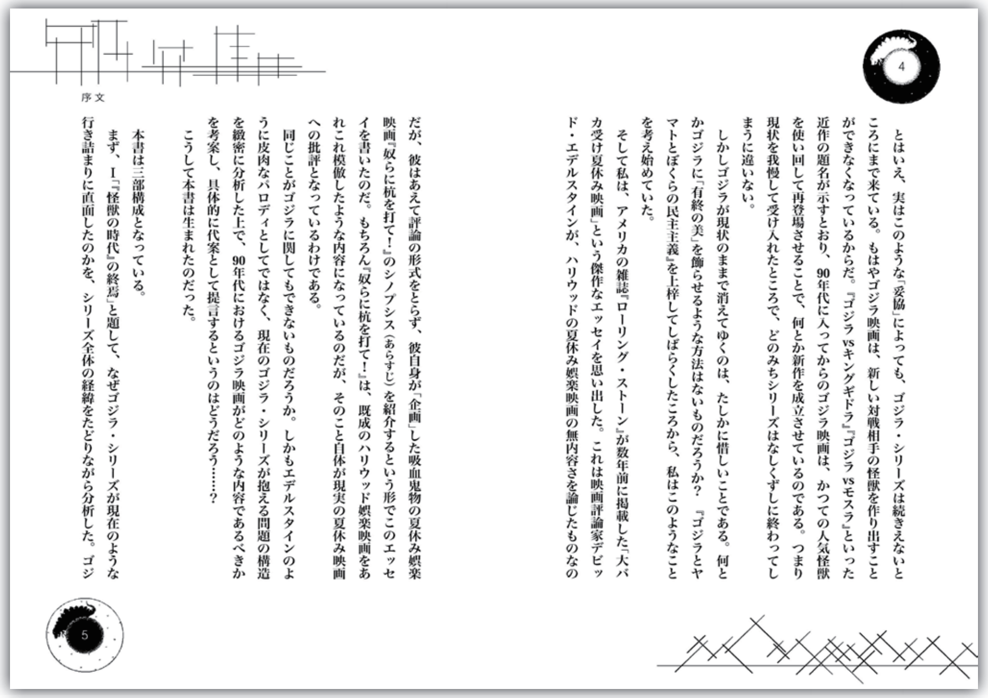
創刊50年を超える歴史のある雑誌。20世紀中は何と鉛活字で印刷していた。
1999年から大熊が表紙のデザインを担当。2004年からDTP化にともない、フォーマットの設計した。



さらば愛しきゴジラよ　佐藤健志著　読売新聞社　1993

Macintoshの漢字TALK7とQuarkXPress3.1によるフルDTP。各ページのイラストを少しずつ回転させ、地球にしがみついたゴジラがパラパラマンガで回転する。つらかった。なにしろメモリが20MB程度なんだから。なんどフリーズしたことか。

装画：東田亜希　組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）



4

とはいえ、実はこのような「妥協」によっても、ゴジラ・シリーズは続きえないところにまで来ている。もはやゴジラ映画は、新しい対戦相手の怪獣を作り出すことができなくなっているからだ。『ゴジラvsキングギドラ』『ゴジラvsモスラ』といった近作の題名が示すとおり、90年代に入ってからのゴジラ映画は、かつての人気怪獣を使い回して再登場させることで、何とか新作を成立させているのである。つまり現状を我慢して受け入れたところで、どのみちシリーズはなしくずしに終わってしまうに違いない。

しかしゴジラが現状のままで消えてゆくのは、たしかに惜しいことである。何とかゴジラに「有終の美」を飾らせるような方法はないものだろうか？　『ゴジラとヤマトとぼくらの民主主義』を上梓してしばらくしたころから、私はこのようなことを考え始めていた。

そして私は、アメリカの雑誌『ローリング・ストーン』が数年前に掲載した「大バカ受け夏休み映画」という傑作なエッセイを思い出した。これは映画評論家デビッド・エデルスタインが、ハリウッドの夏休み娯楽映画の無内容さを論じたものなのだが、彼はあえて評論の形式をとらず、彼自身が「企画」した吸血鬼物の夏休み娯楽映画『奴らに杭を打て！』のシノプシス（あらすじ）を紹介するという形でこのエッセイを書いたのだ。もちろん『奴らに杭を打て！』は、既成のハリウッド娯楽映画をあれこれ模倣したような内容になっているのだが、そのこと自体が現実の夏休み映画への批評となっているわけである。

同じことがゴジラに関してもできないものだろうか。しかもエデルスタインのように皮肉なパロディとしてではなく、現在のゴジラ・シリーズが抱える問題の構造を緻密に分析した上で、90年代におけるゴジラ映画がどのような内容であるべきかを考案し、具体的に代案として提言するというのはどうだろう……？

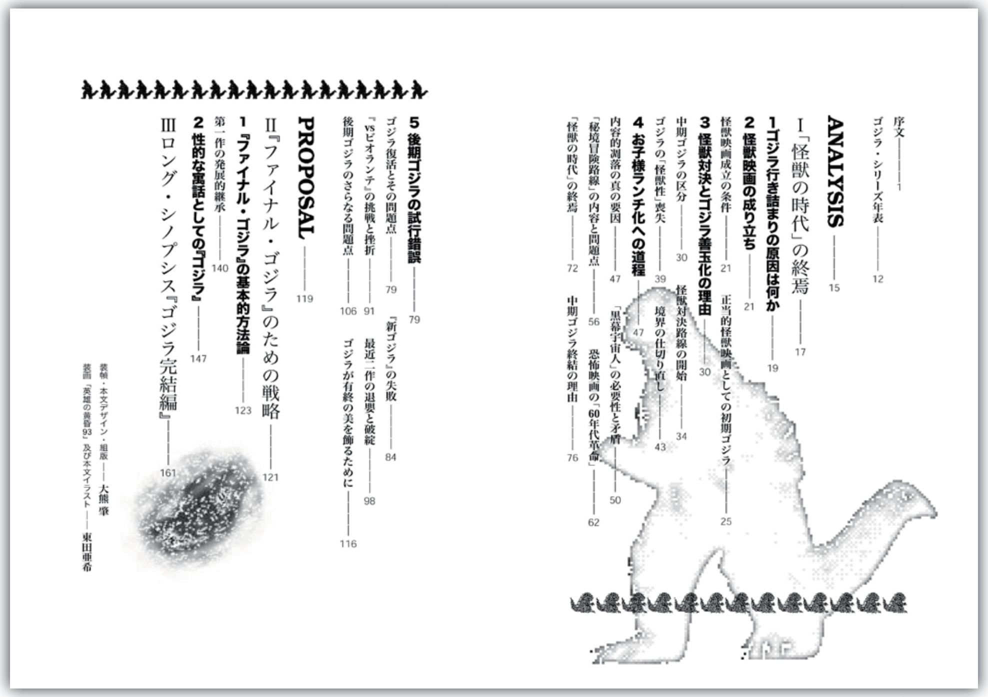
こうして本書は生まれたのだった。

本書は三部構成となっている。

まず、I『怪獣の時代』の終焉」と題して、なぜゴジラ・シリーズが現在のような行き詰まりに直面したのかを、シリーズ全体の経緯をたどりながら分析した。ゴジ

序文

5



序文——1
ゴジラ・シリーズ年表——12
ANALYSIS——15
I「怪獣の時代」の終焉——17
1ゴジラ行き詰まりの原因は何か——19
2 怪獣映画の成り立ち——21
怪獣映画成立の条件——21
正当的怪獣映画としての初期ゴジラ——25
3 怪獣対決とゴジラ善玉化の理由——30
中期ゴジラの区分——30
怪獣対決路線の開始——34
ゴジラの「怪獣性」喪失——39
境界の仕切り直し——43
4 お子様ランチ化への道程——47
内容的凋落の真の要因——47
「黒幕宇宙人」の必要性と矛盾——50
「秘境冒険路線」の内容と問題点——56
恐怖映画の「60年代革命」——62
「怪獣の時代」の終焉——72
中期ゴジラ終結の理由——76
5 後期ゴジラの試行錯誤——79
ゴジラ復活とその問題点——79
『新ゴジラ』の失敗——84
『vsビオランテ』の挑戦と挫折——91
最近二作の退嬰と破綻——98
後期ゴジラのさらなる問題点——106
ゴジラが有終の美を飾るために——116
PROPOSAL——119
II『ファイナル・ゴジラ』のための戦略——121
1『ファイナル・ゴジラ』の基本的方法論——123
第一作の発展的継承——140
2 性的な寓話としての『ゴジラ』——147
IIIロング・シノプシス『ゴジラ完結編』——161

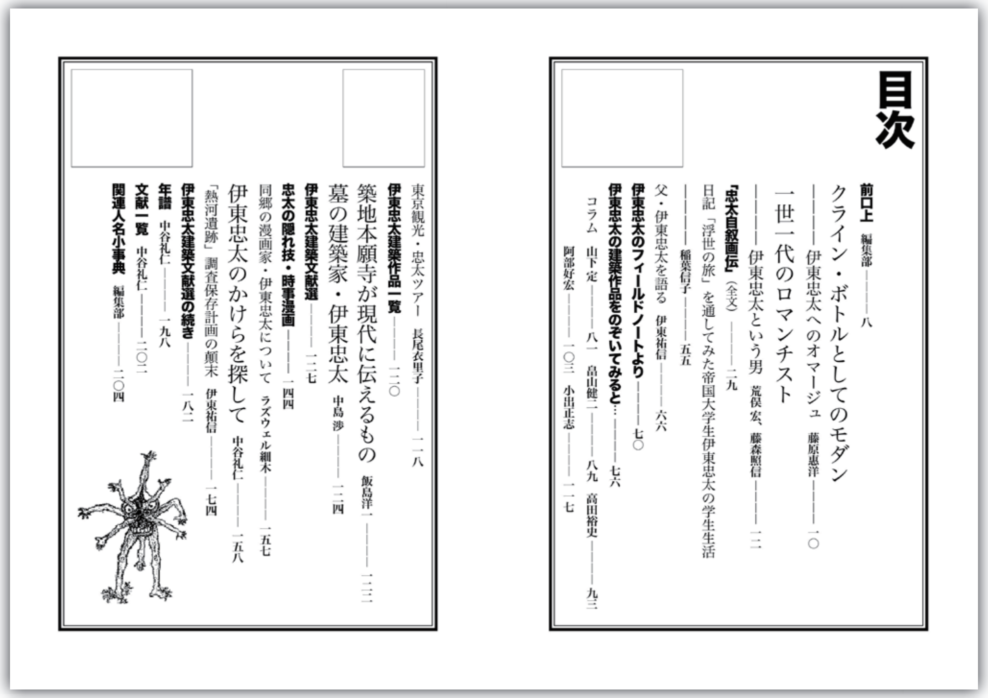
装幀・本文デザイン・組版——大熊肇
装画「英雄の黄昏93」及び本文イラスト——東田亜希

※昔のデータなのでOCFフォントの再現が忠実ではありません

建築巨人 伊藤忠太　読売新聞社編　読売新聞社　1990

Architectを建築と訳し、法隆寺が世界最古の木造建築であることを発見。築地本願寺や平安神宮、明治神宮を設計。芸術院会員と学士院会員の両方になったスーパーマン伊東忠太。以前、編集者が「知ってるつもり」に持ちかけたところ「涙をさそう話か、教訓になる話がないと……」といわれたらしい。カバーは1色刷り。QuarkXPressによるDTP。

組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）



目次

前口上　編集部――八
クライン・ボトルとしてのモダン
――伊東忠太へのオマージュ　藤原恵洋――一〇
一世一代のロマンチスト
――伊東忠太という男　荒俣宏、藤森照信――一三
「忠太自叙画伝」（全文）――二九
日記「浮世の旅」を通してみた帝国大学生伊東忠太の学生生活
――稲葉信子――五五
父・伊東忠太を語る　伊東祐信――六六
伊東忠太のフィールドノートより――七〇
伊東忠太の建築作品をのぞいてみると…――七六
コラム　山下定――八一　畠山健二――八九　高田裕史――九三
阿部好宏――一〇三　小出正志――一一七
東京観光・忠太ツアー　長尾衣里子――一一八
伊東忠太建築作品一覧――一二〇
築地本願寺が現代に伝えるもの　飯島洋一――一二三
墓の建築家・伊東忠太　中島渉――一二四
伊東忠太建築文献選――一二七
忠太の隠れ技・時事漫画――一四四
同郷の漫画家・伊東忠太について　ラズウェル細木――一五七
伊東忠太のかけらを探して　中谷礼仁――一五八
「熱河遺跡」調査保存計画の顛末　伊東祐信――一七四
伊東忠太建築文献選の続き――一八二
年譜　中谷礼仁――一九八
文献一覧　中谷礼仁――二〇二
関連人名小事典　編集部――二〇四

一世一代のロマンチスト　伊東忠太という男

荒俣宏（作家）
藤森照信（建築学）

●法隆寺のルーツを求めて探検の旅へ

藤森　伊東忠太は、当時を代表する建築家であり、建築史の学者でもあったわけですが、建築家としての作品でよく知られているのは、築地の本願寺ですね。あの異様な、一度見たら忘れられないインド風の寺院。それと、京都の平安神宮や一橋大学なんかも手がけている。
　建築史の学者としては僕らのじいさんみたいなもので、日本の第一号、なにしろ、法隆寺が世界最古の木造建築だということを発見して、建築の歴史研究を最初に始めた人なんです。しかも、法隆寺の柱のエンタシスがギリシャのパルテノン神殿に似ていると言い出した後、面白いのは、ギリシャからエンタシスが伝わってきた跡を逆に辿って、ギリシャまで歩いてみようと思い立ってしまう。で、文部省からお金をもらって三年間、ロバに乗って中国からインド、アフガニスタンを抜けて、最後はイスタンブールにまで辿りつく。その結果、法隆寺のエンタシスがギリシャから来たかどうかはあまり明らかにはならなかったんだけどとにかくそんなふうにケタはずれの考え方をする人だったんですね。いまでもそうだけど、当時は特に、そんな考え方をする人は珍しかった。
荒俣　外国にはいましたけどね。例えば探検家のスウェン・ヘディン。彼はアレキサンダー大王の東征の跡を全部歩こう、そうすれば、当時世界がどのくらい遠かったか、ヘレニズム文化がどこまで行っているかがわかるだろうというので、やはり中央アジアを歩いている。明治時代に

写真

仏教研究の目的で大谷探検隊を三度に渡って派遣した大谷光瑞なんかも、その影響をかなり受けていたようですが。
藤森　当時、ヨーロッパの列強が盛んに繰り出していた各国の探検隊を迎えうつような形で、伊東忠太や大谷探検隊が日本から中央アジアに向かって出掛けていった。
荒俣　その結果、ちょうどインドとかチベットのあたりでぶつかるわけね。たった一歩の違いで貴重な発見を先に持っていかれたとか、いろいろな問題が起こったりする。
藤森　中国の雲崗石窟なんかも伊東忠太が最初に発見したんだけど、それを北京あたりでしゃべったのがフランスの学者に流れて、パリで大きく発表されちゃう。当時、フランスはベトナムに本拠地を置いて、すごい勢いでアジア研究をやっていたから、その網にまんまと引っかかったわけです。だから、伊東忠太の雲崗発見は、世界的にはあまり認められていない。
荒俣　伊東忠太が雲崗で何を見つけたかというと、やっぱり法隆寺を見つけたわけでしょう。あっ、こんなところに法隆寺があるじゃないかって。
藤森　そうそう。卍崩しの勾欄とか、人字形の割り束とか、法隆寺のディテールが、あそこにはあるんです。
荒俣　伊東忠太は留学という名目でアジアに出掛けていくんだけど、当時、偉くなろうと思ったら、みんなヨーロッパなんですね。
藤森　アメリカでもダメです。ましてアジアなんかとんでもなかった。
荒俣　文部省にそんな金は出せないと言われるんだけど、一年間ごねにごねて、結局は予定の三分の二ぐらいをようやくもらって、出発する。行ってすぐに北京かなんかで雲崗になんかあるらしいと聞いて、そこでいきなり法隆寺を見つけちゃったものだから、すっかり喜んじゃって、現地でいろいろ講演をやったらしいんですね。そしたら、フランス人が聞いてて、すぐに二巻本を作っちゃったらしい。
　そのころは期せずして西洋でも日本でも、文化のルーツを眺めようということで、アジアの真ん中で各国が組んづほぐれつの状態だった。一番大儲けしたのはイギリスで、敦煌

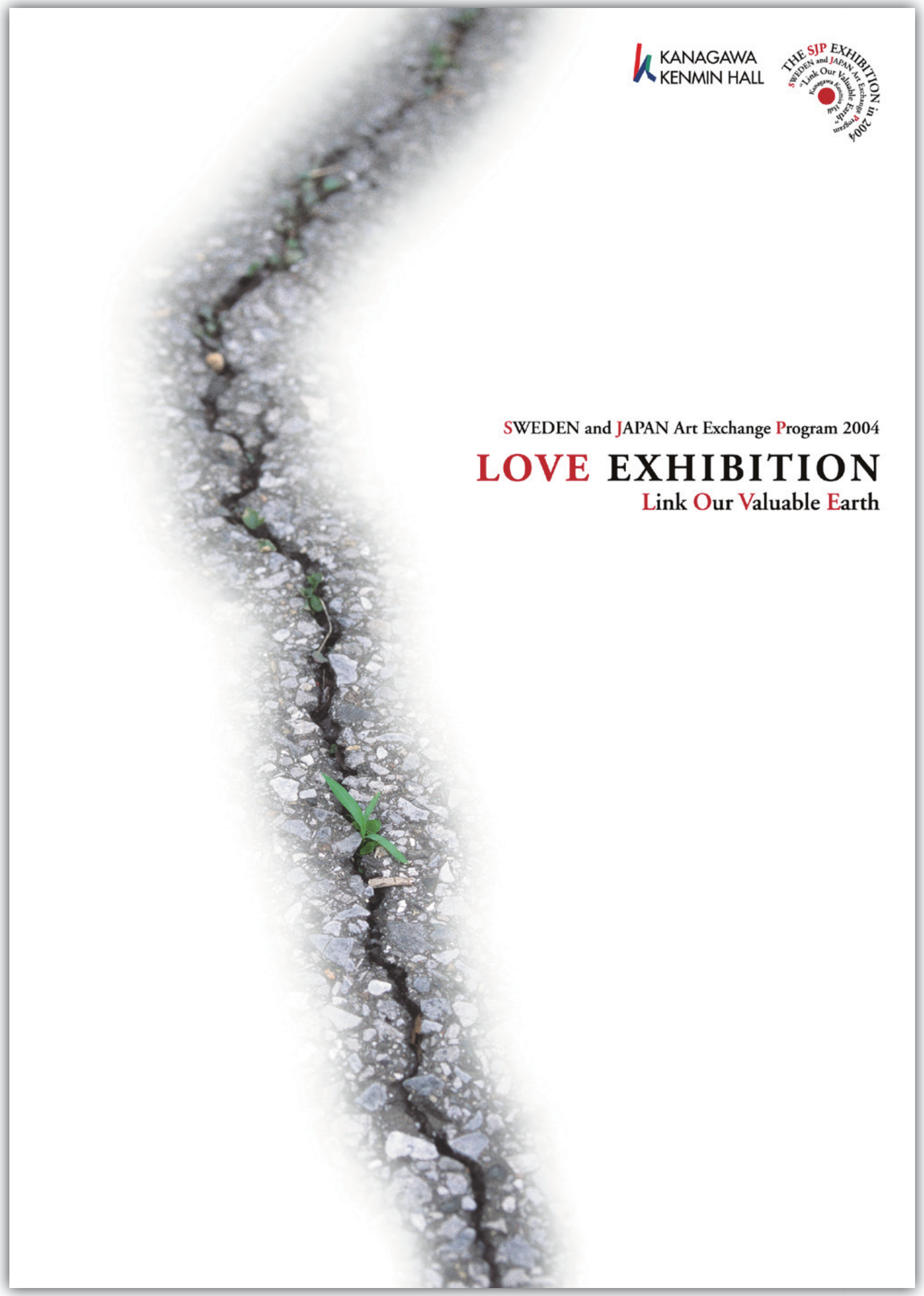
※昔のデータなのでOCFフォントの再現が忠実ではありません

※昔のデータなのでOCFフォントの再現が忠実ではありません

志ん生！　落語ワンダーランド　読売新聞社編　読売新聞社　1993

読売新聞社の名物編集者某が、落語の本の企画を3つ上に上げたところ、志ん生の本の企画だけが通った。どうしても3つの本を作りたかった某は、3冊文の原稿を1冊に詰め込むことを大熊に命じた。虫眼鏡がないとても読めない。組版をする方はもっとつらい。

組版設計・DTP組版：大熊肇＋中妻祐子（tonan）　題字・装釘：大熊肇（tonan）



「LOVE展」カタログ表紙　2004　主催：日本SJP委員会　写真・デザイン：大熊肇（tonan）

Japan

大熊 肇

OKUMA, Hajime

風化した壁や錆びた鉄の表面、シミやデカルコマニー、木目など、偶然みつけたものを素材として、自らの肉体と表層の意識を隠し、深層の意識による「発見」と「選択」、「概念の変換」によって作品を制作している。

1960年埼玉県生まれ。
8歳で書道を、14歳で写真を、18歳で篆刻をはじめる。
桑沢デザイン研究所リビングデザイン研究科（グラフィックデザイン専攻）卒。
2000–2004 NAU＝21世紀美術連立展（東京都美術館）
2001 SJP展埼玉（埼玉県立近代美術館）
2002 SJP大阪国際美術展（大阪府立現代美術センター）
など

OKUMA Hajime creates works using materials found by chance, such as weathered walls, surface of rusted iron, smudges, decalcomania and grain of woods etc., through the process of "discover", "selection" and "conversion of concept" by his in-depth subconscious, concealing his body and superficial consciousness.
At age 8 started *Sho-do* (Calligraphy), at age 14 started Photography, at age 18, started *Tenkoku* (Seal-engraving).
1988 Graduated from Kuwasawa Design School, Post-graduate course, majored in Graphic Design.
2000–2004 NAU Exhibition (Tokyo Metropolitan Art Museum) / 2001 SJP Exhibition in Saitama (The Museum of Modern Art, Saitama) / 2002 SJP International Exhibition in Osaka (Osaka Contemporary Art Center) etc.

LOVE

28

「LOVE展」カタログ本文ページ　編集・組版設計・DTP組版・撮影：大熊肇（tonan）

走れ！ T高バスケット部

松崎洋　彩雲出版　2007

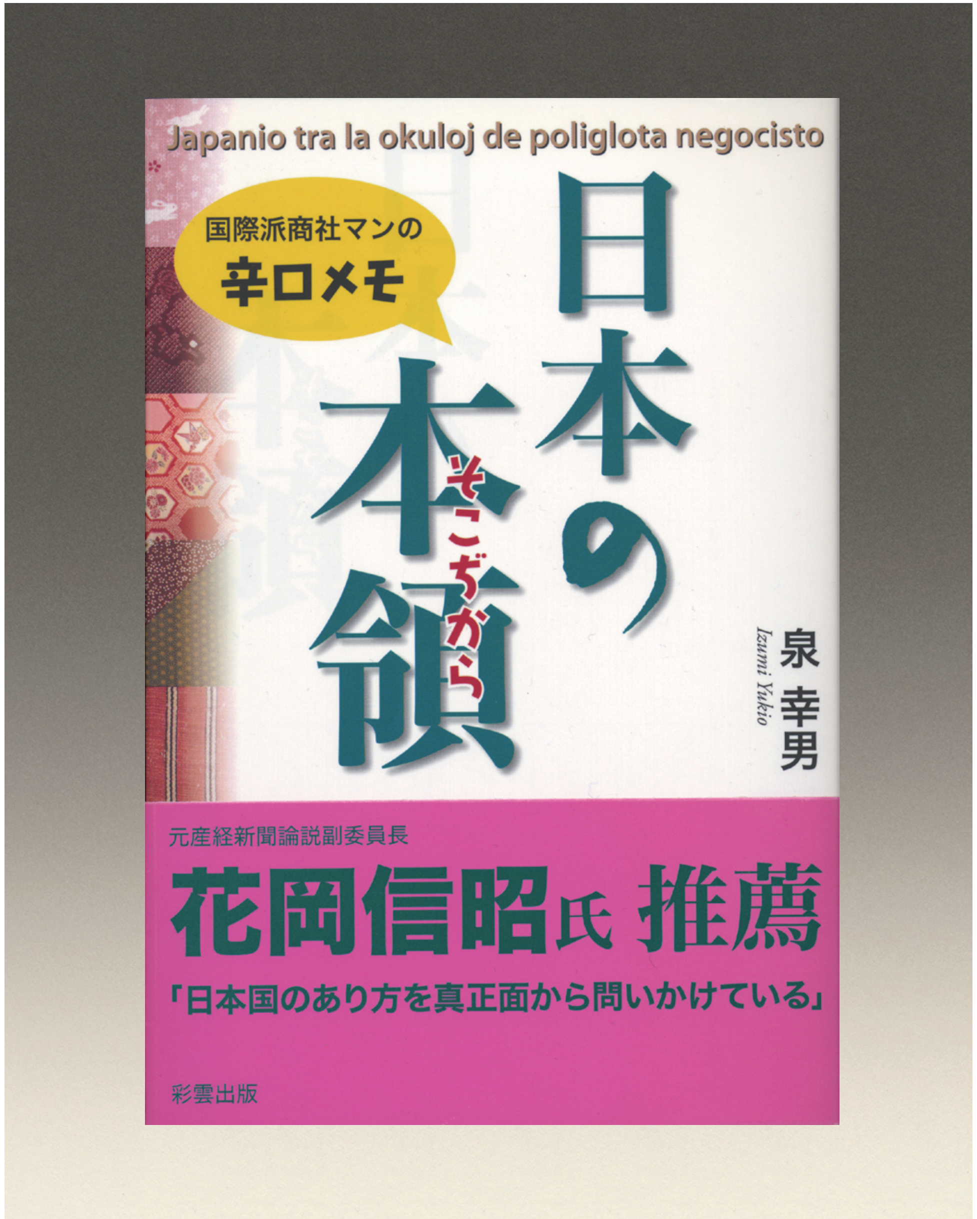
続編とあわせて30万部も売れてしまった！

装釘：大熊肇（tonan）

走れ！ T高バスケット部2

松崎洋　彩雲出版　2008

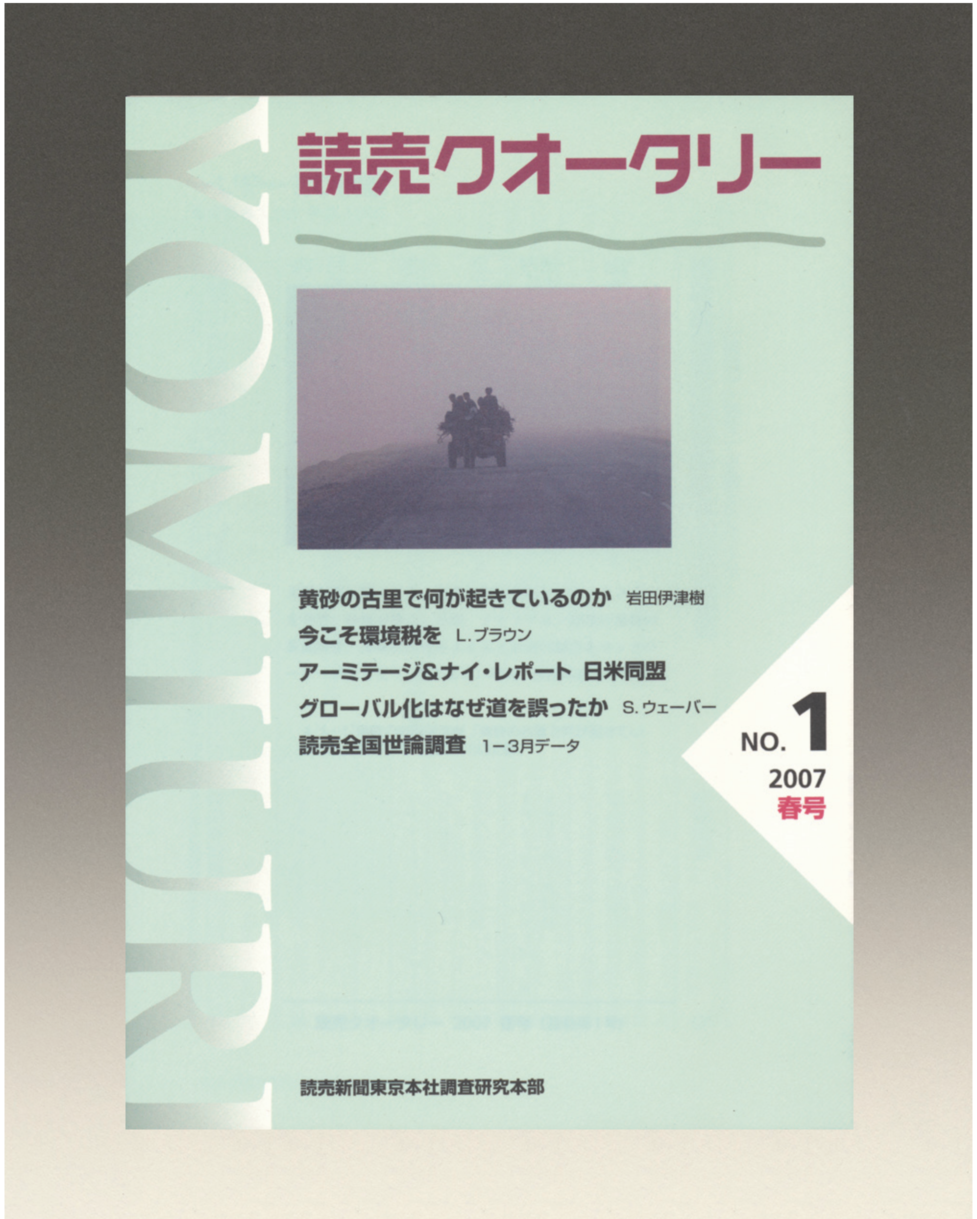
装釘：大熊肇（tonan）



日本の本領

泉幸男　彩雲出版　2007

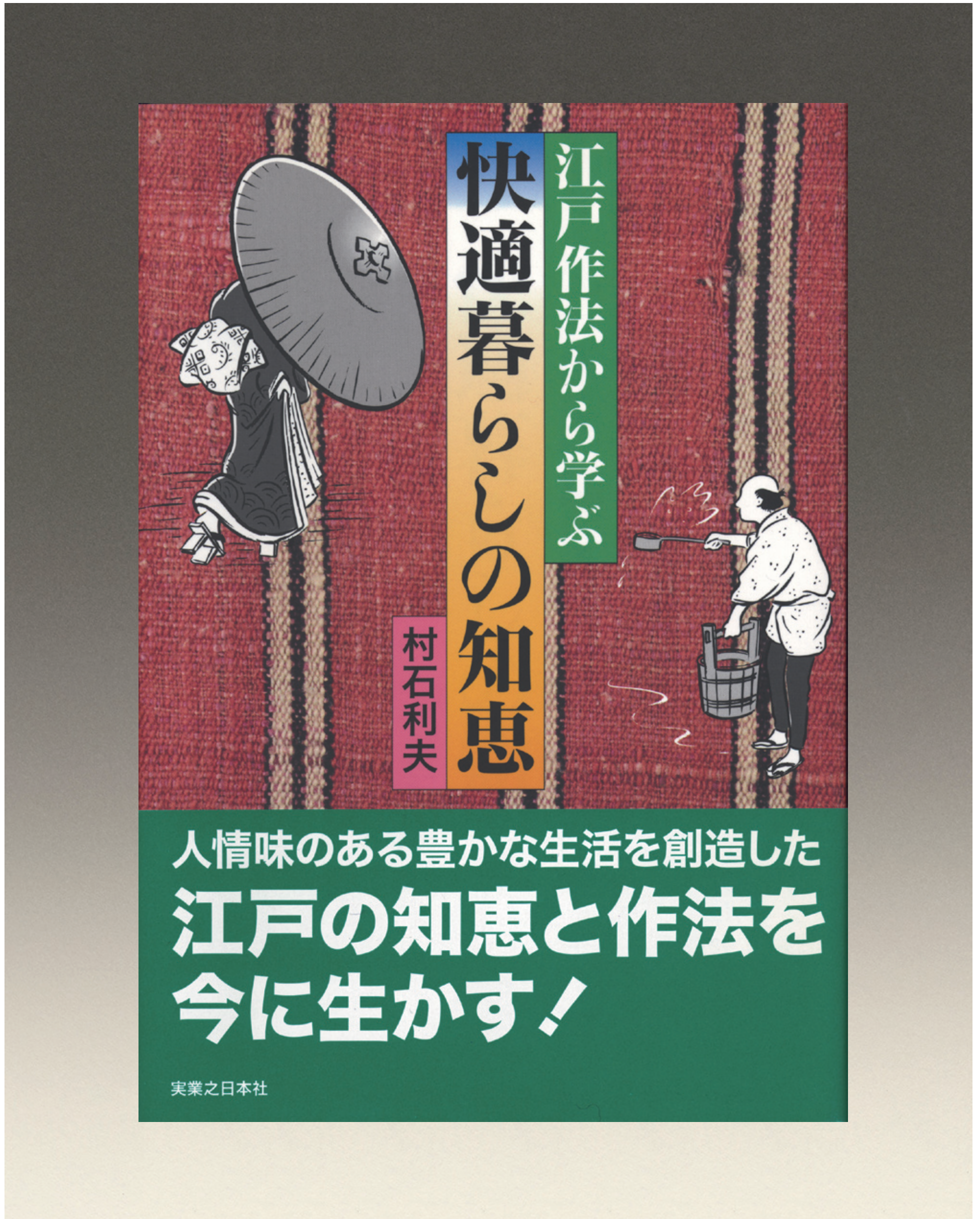
装釘：大熊肇（tonan）



読売クオータリー

読売新聞東京本社調査研究本部　2007

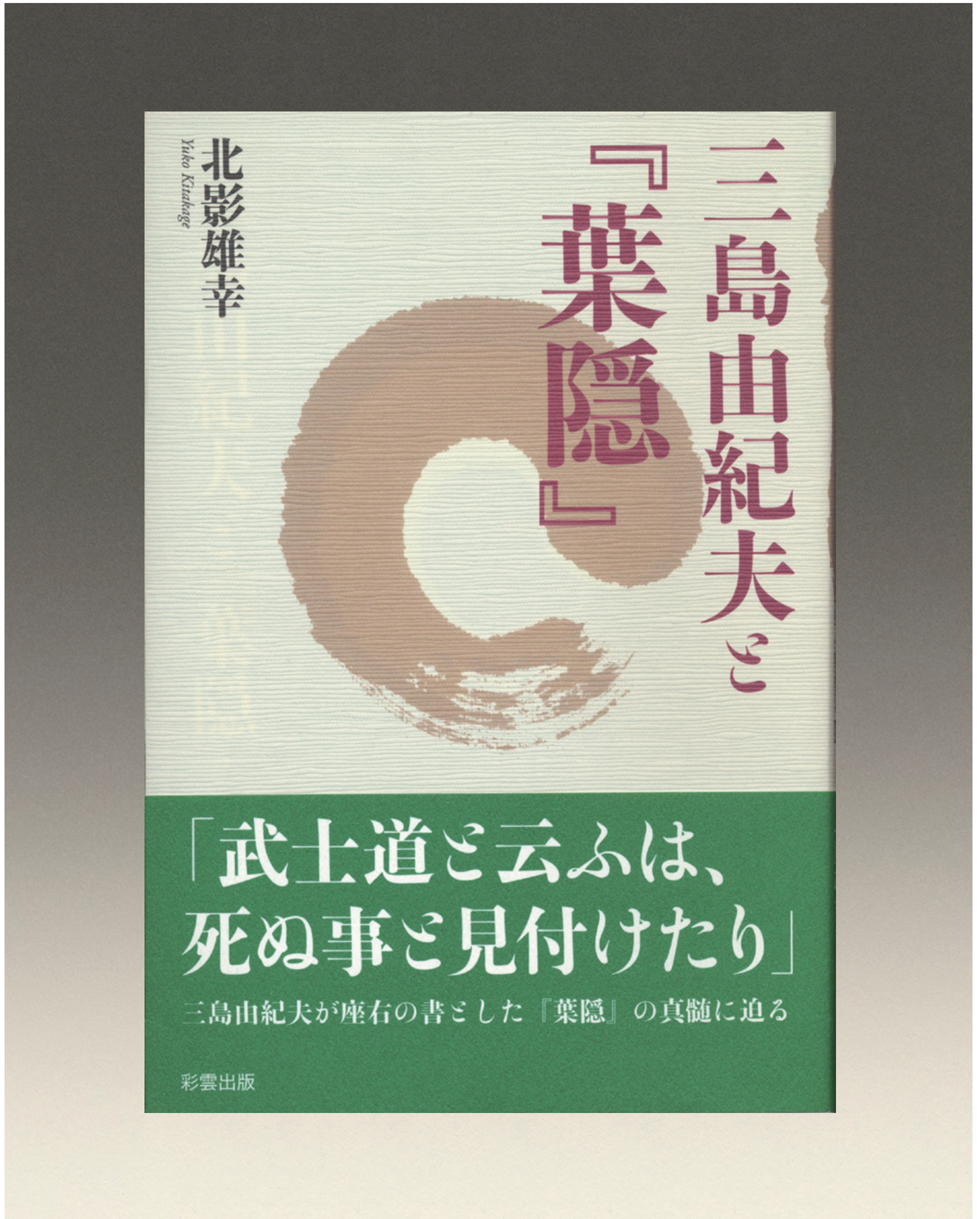
装釘：大熊肇（tonan）



江戸作法から学ぶ快適暮らしの知恵

村石利夫　実業の日本社　2006

装釘：大熊肇（tonan）



三島由紀夫と『葉隠』

北影雄幸　彩雲出版　2006

装釘：大熊肇（tonan）

アイドルぐりぐり大事典　読売新聞社　1993

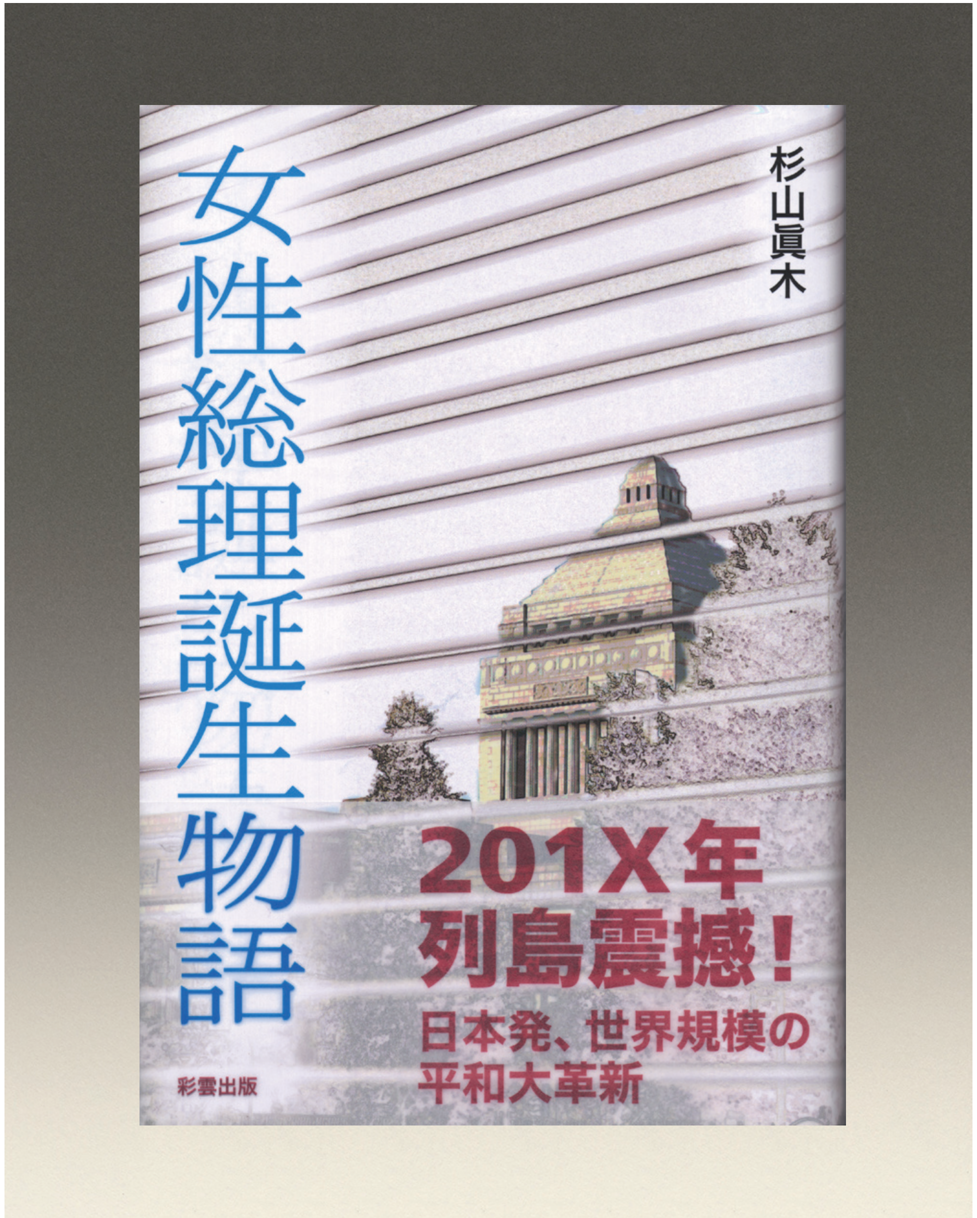
写真だとコーネル装の上製本に見えるが、厚さ7〜8ミリのムック。コーネル装の本を写真撮影して印刷した。
当時の非力なMacintoshでフルDTPに挑んだ。
ちなみに大熊も著者のひとり。

コーネル装の撮影・組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）

テレビごくらく大事典　読売新聞社　1993

悪ふざけして、こんなムックも作った。タイトルは中村不折の「いろは帖」を参考にして、ゴシック風にレタリングした。このムック、探しているコレクターがいるらしい。

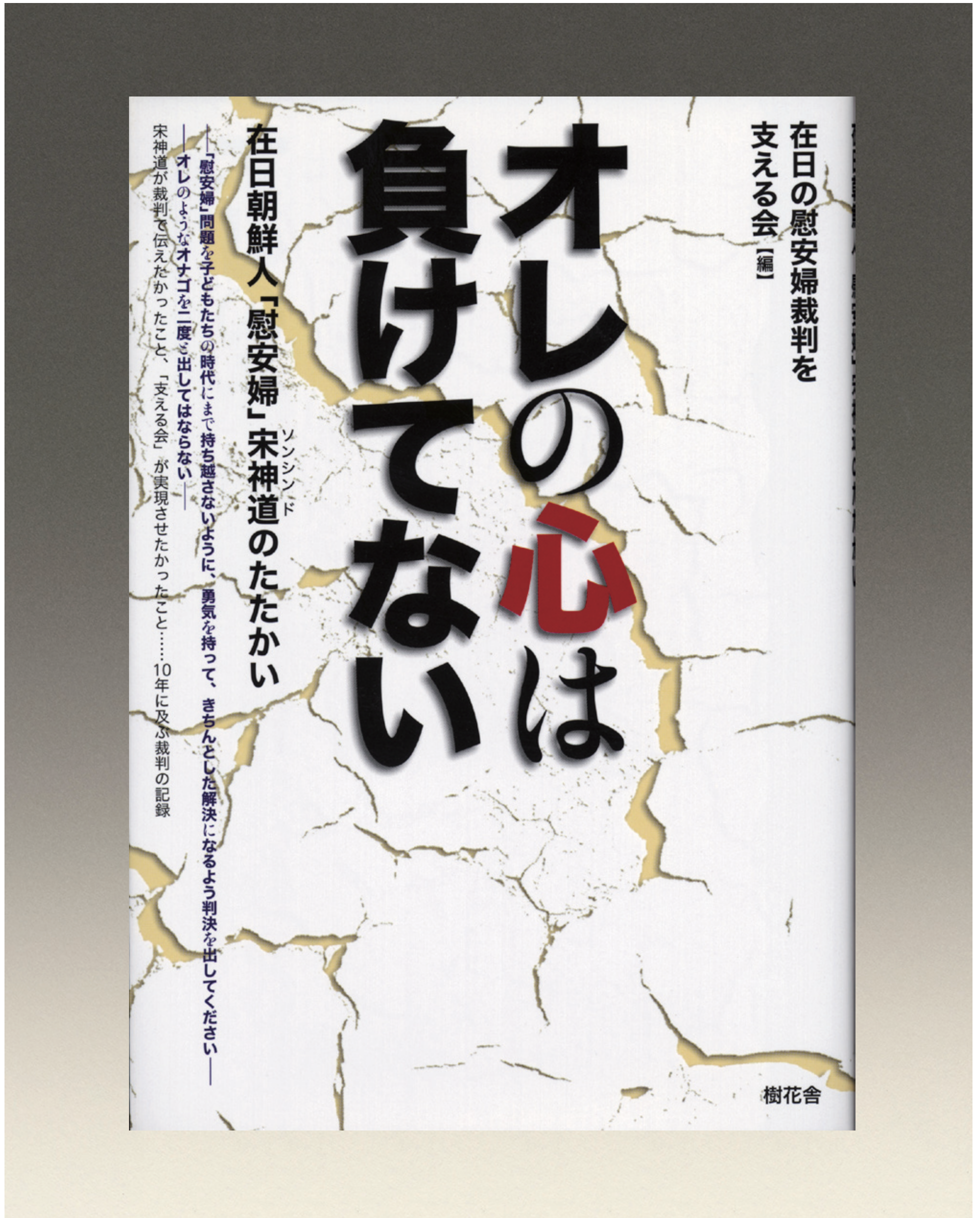
イラスト：大田晴子　DTP組版・装釘・題字：大熊肇（tonan）



女性総理誕生物語

杉山眞木　彩雲出版　2007

装釘：大熊肇（tonan）



オレの心は負けてない

在日の慰安婦裁判を支える会【編】　樹花舎　2007

装釘：大熊肇（tonan）

とりあげないでわたしの学校

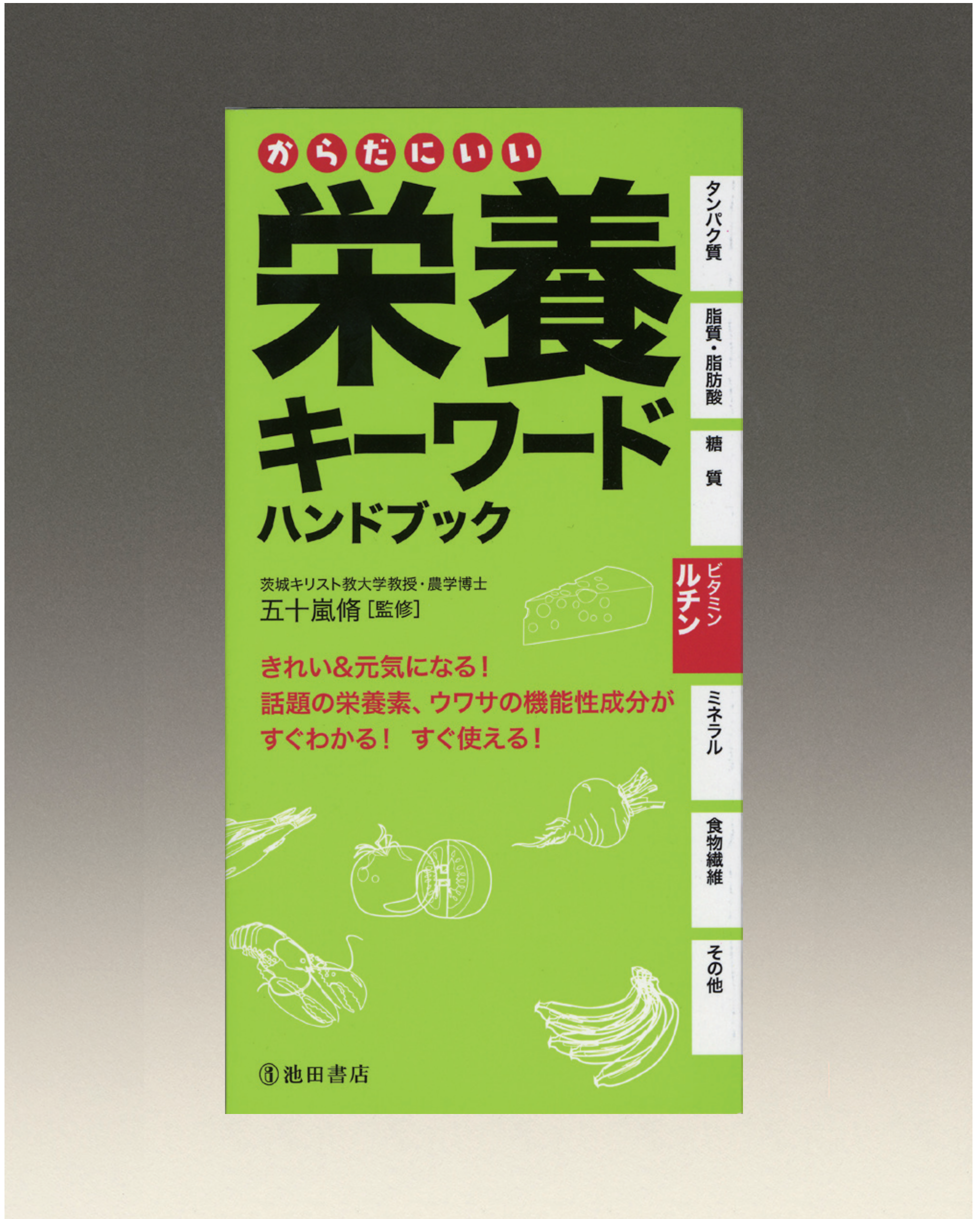
枝川朝鮮学校裁判の記録　樹花舎　2006

装釘：大熊肇（tonan）

最新 栄養キーワード事典

五十嵐脩【監修】　池田書店　2005

装釘：大熊肇（tonan）



栄養キーワードハンドブック

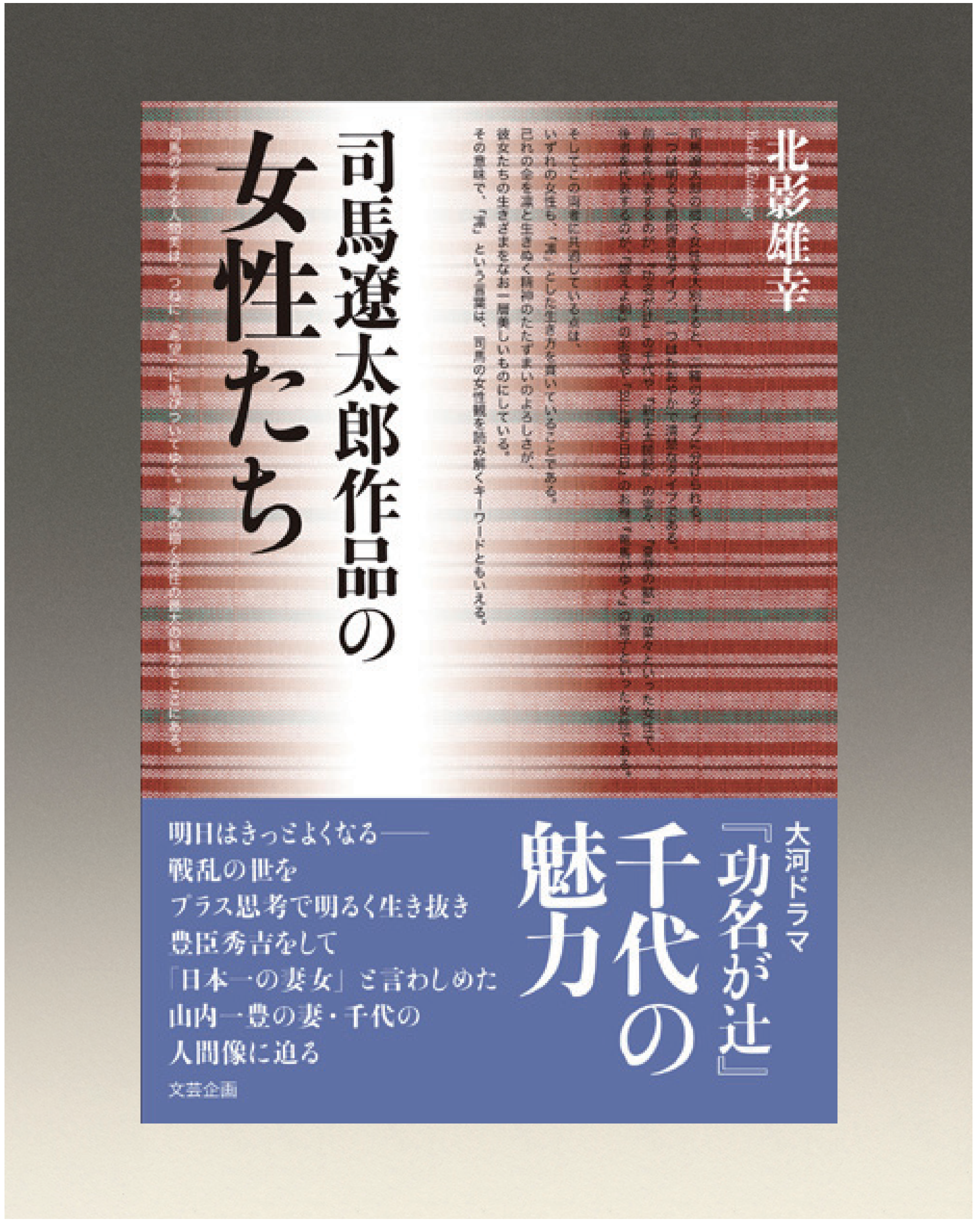
五十嵐修【監修】　池田書店　2005

装釘：大熊肇（tonan）

危ないぞ！ 共謀罪

小倉利丸／海渡雄一　樹花舎　2006

装釘：大熊肇（tonan）



司馬遼太郎作品の女性たち

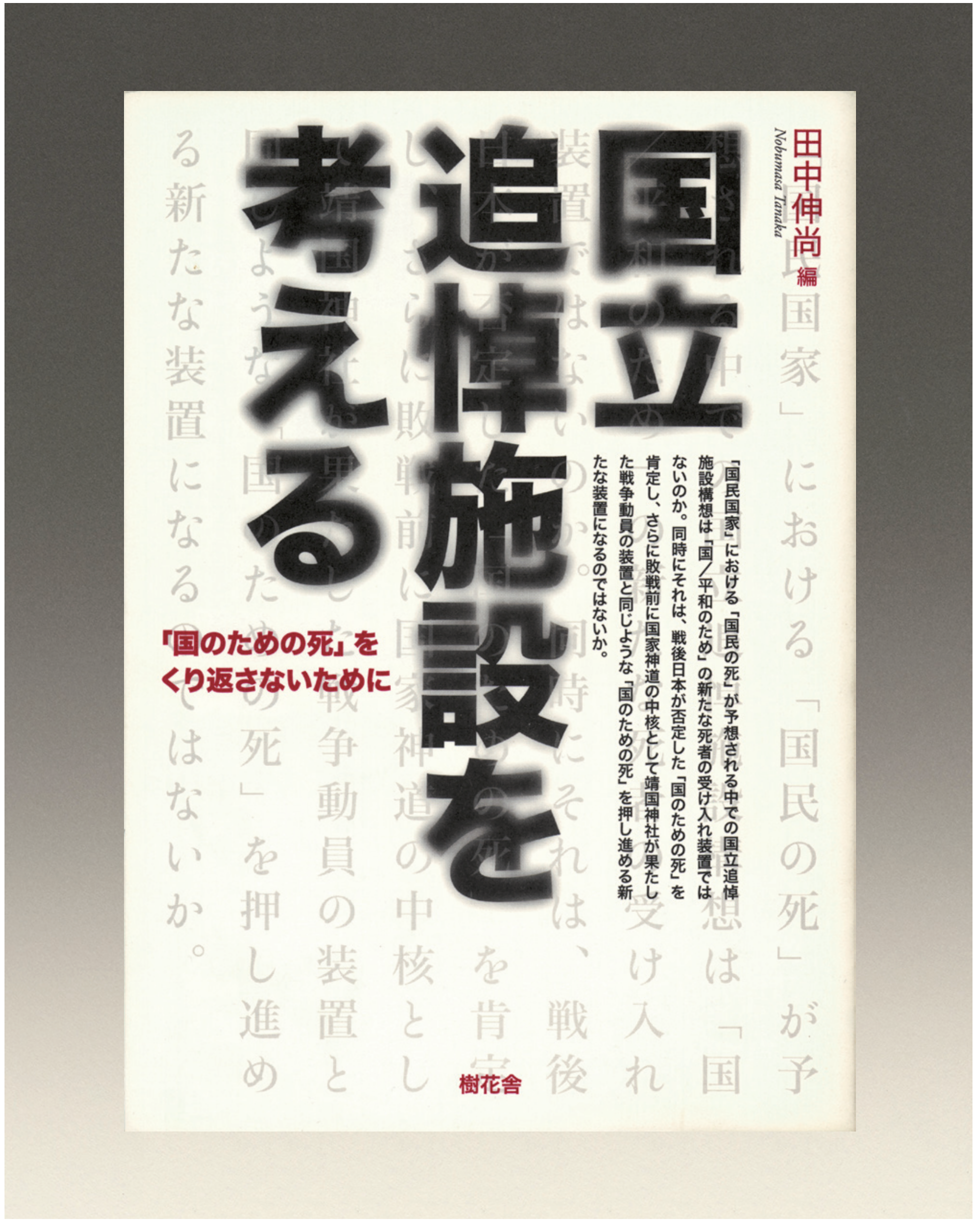
北影雄幸　文芸企画　2006

装釘：大熊肇（tonan）

On the Way

城下るり子　2006

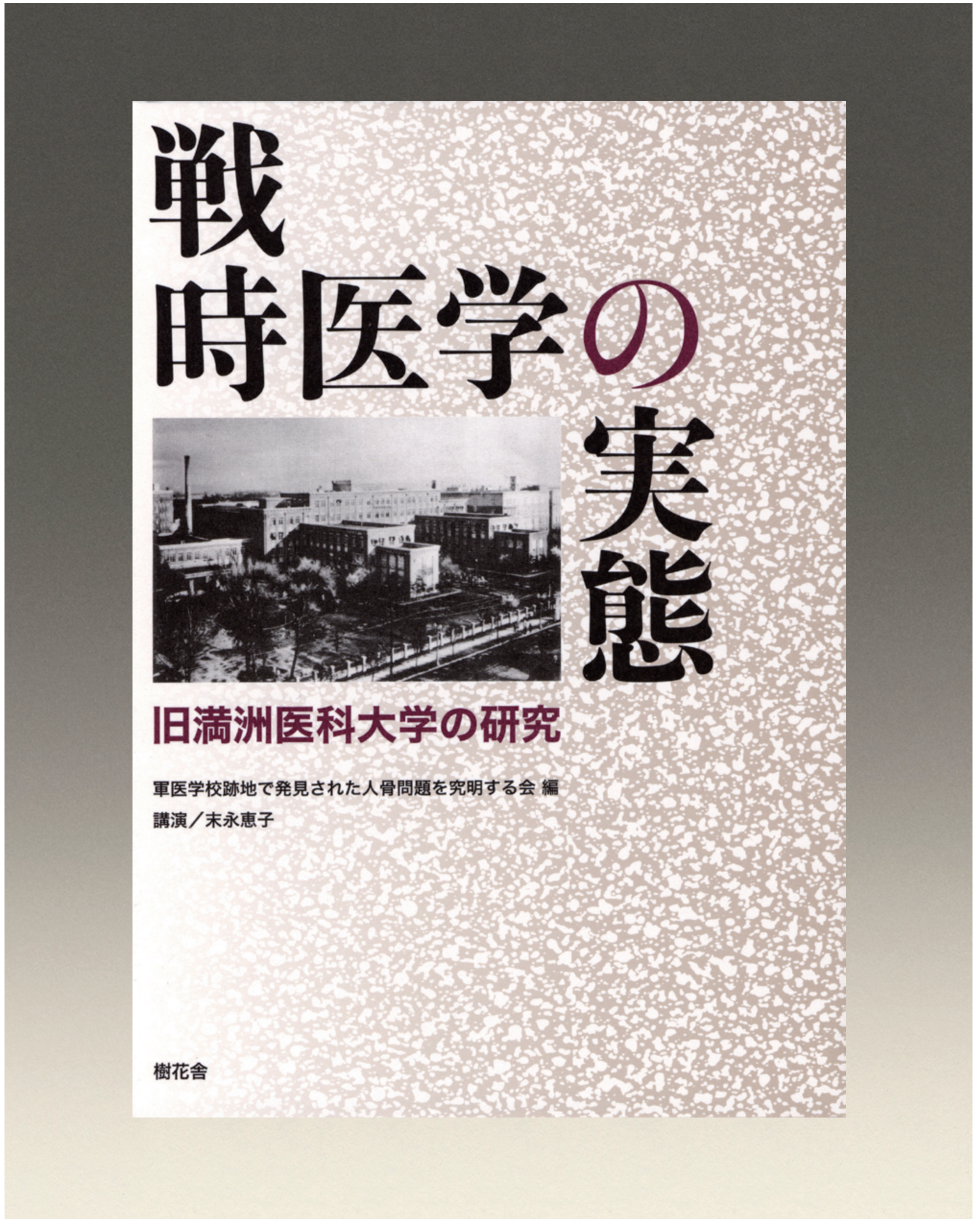
装釘：大熊肇（tonan）



国立追悼施設を考える

田中伸尚【編】　樹花舎　2003

装釘：大熊肇（tonan）



戦時医学の実態—旧満洲医科大学の研究

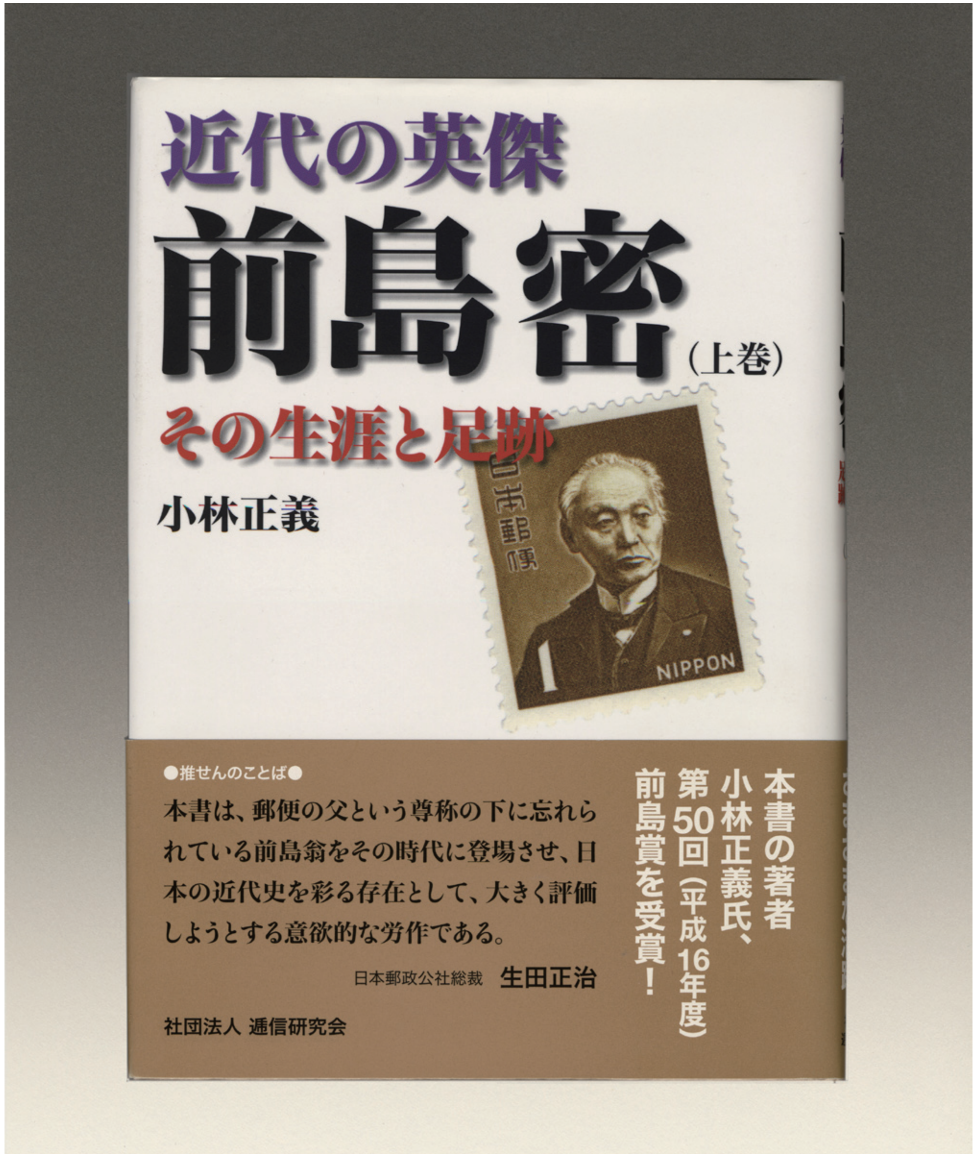
軍医学学校跡地で発見された人骨問題を究明する会【編】　樹花舎　2006

装釘：大熊肇（tonan）

東京いい映画館みたい映画館

丹野達弥【編】　樹花舎　1988

装釘：大熊肇（tonan）



近代の英傑　前島密　その生涯と足跡（上）　社団法人 逓信研究会　2005

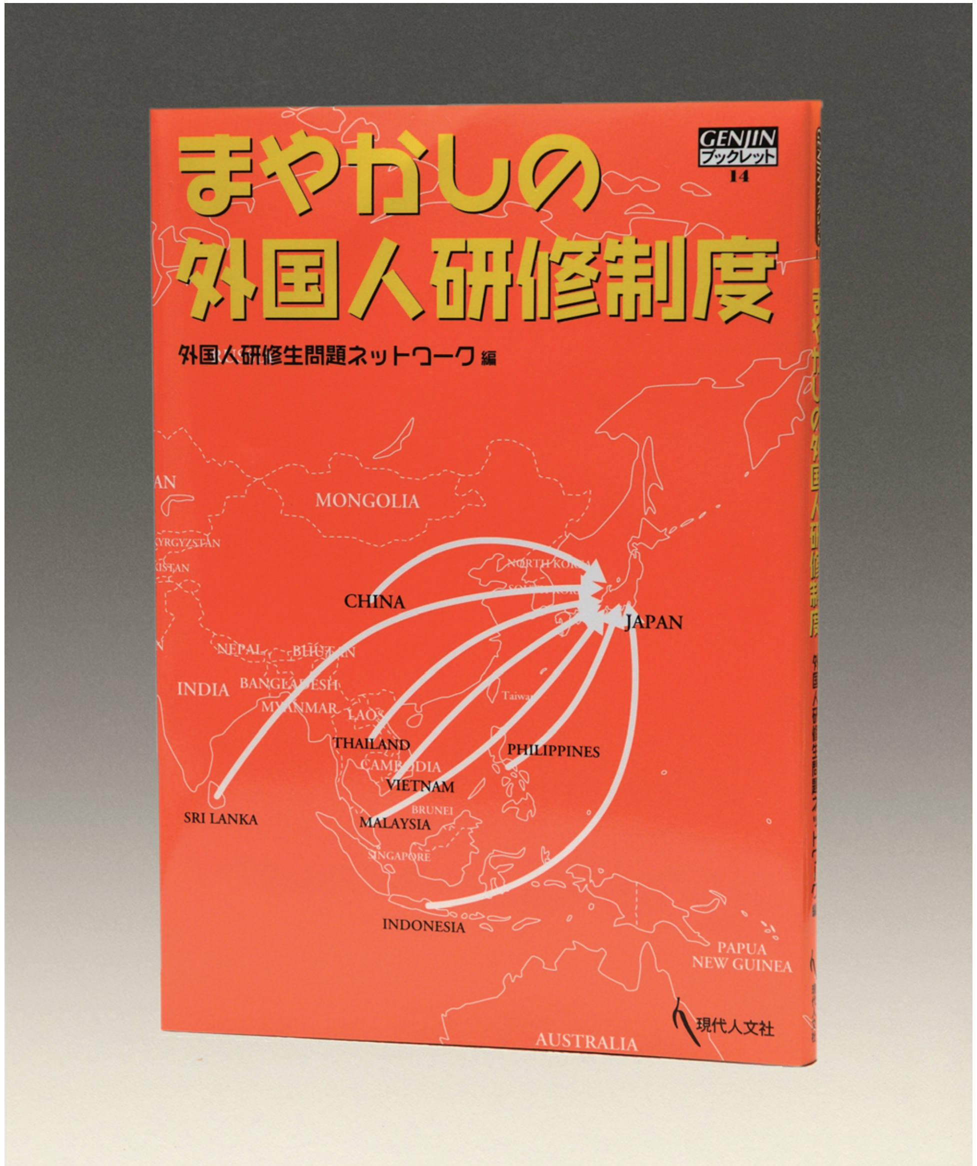
編集、本文デザイン、組み版、装釘を小社で担当した。なにかとタイムリーな書籍である。郵政民営化前に、なんとしても下巻を揃えなければと思っていたのだが、原稿が間に合わず時間切れ。

編集・組版設計・DTP 組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）

映画論叢　樹花舎

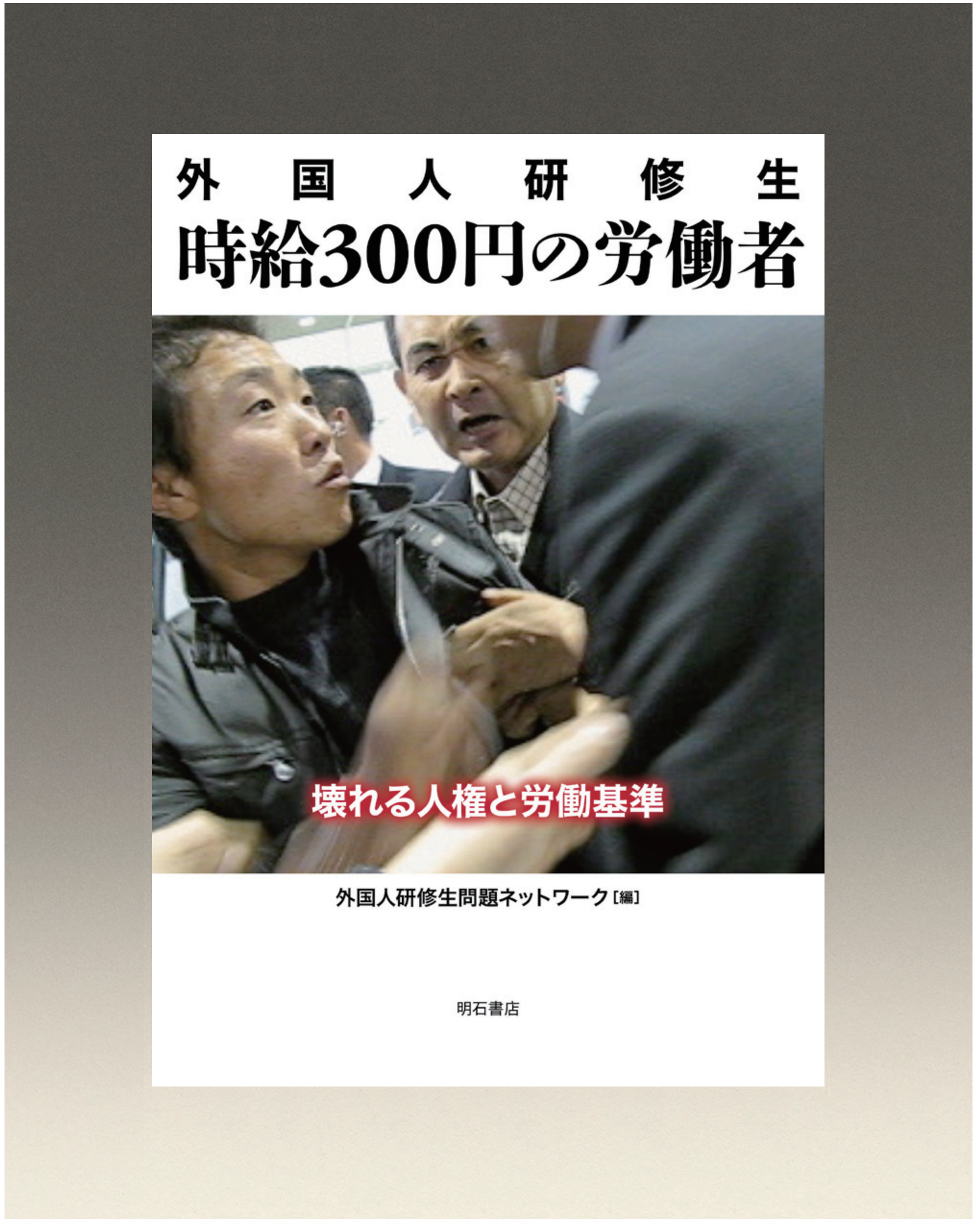
正直言ってこんなにマニアックな雑誌が、こんなに続くとはおもわなかった。

組版基本フォーマット設計・装釘：大熊肇（tonan）



まやかしの外国人研修制度　外国人研修生問題ネットワーク　2000

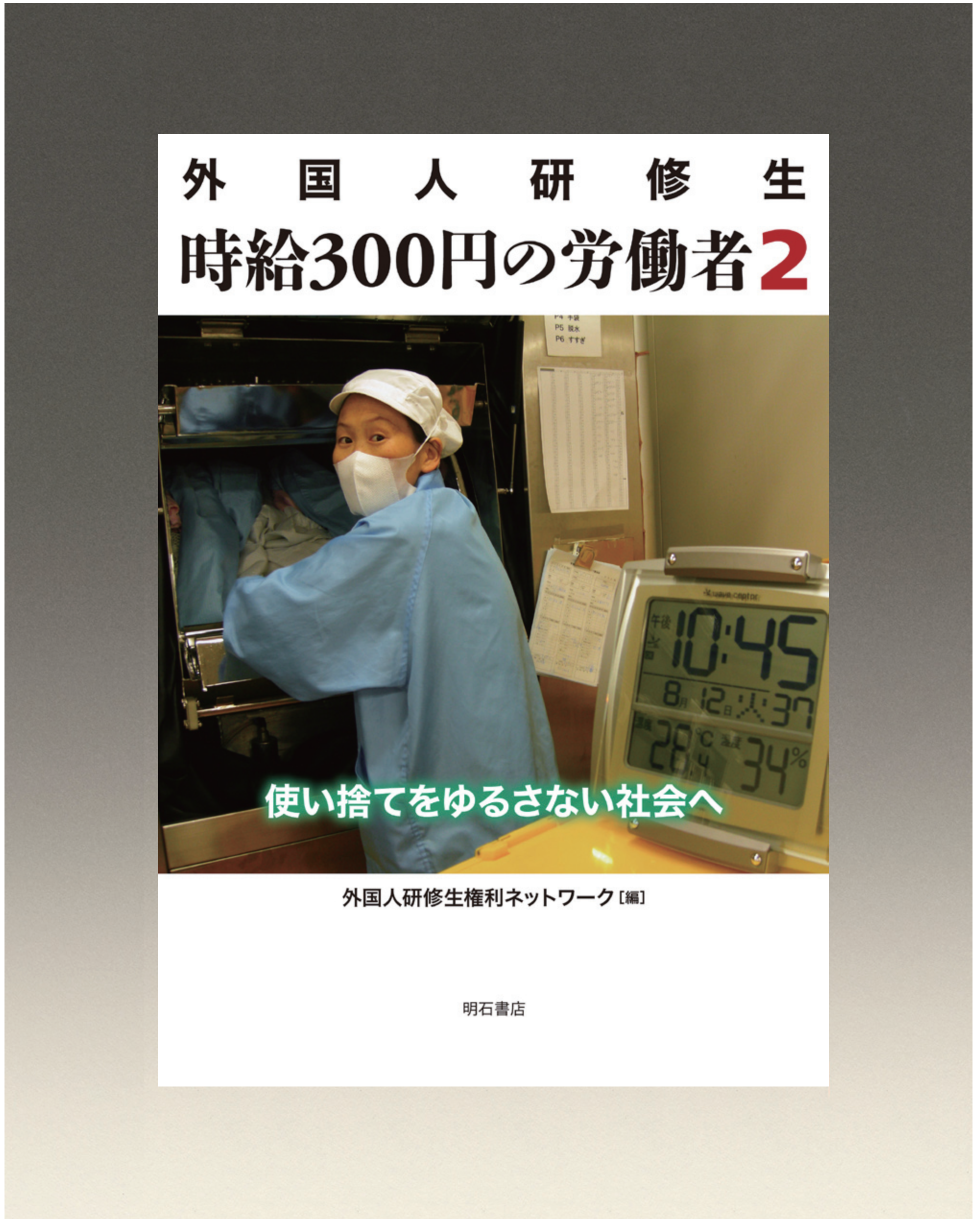
編集・組版設計・DTP 組版・装釘：大熊肇（tonan）　校正：中妻祐子（tonan）



外国人研修生 時給300円の労働者

明石書店　2006

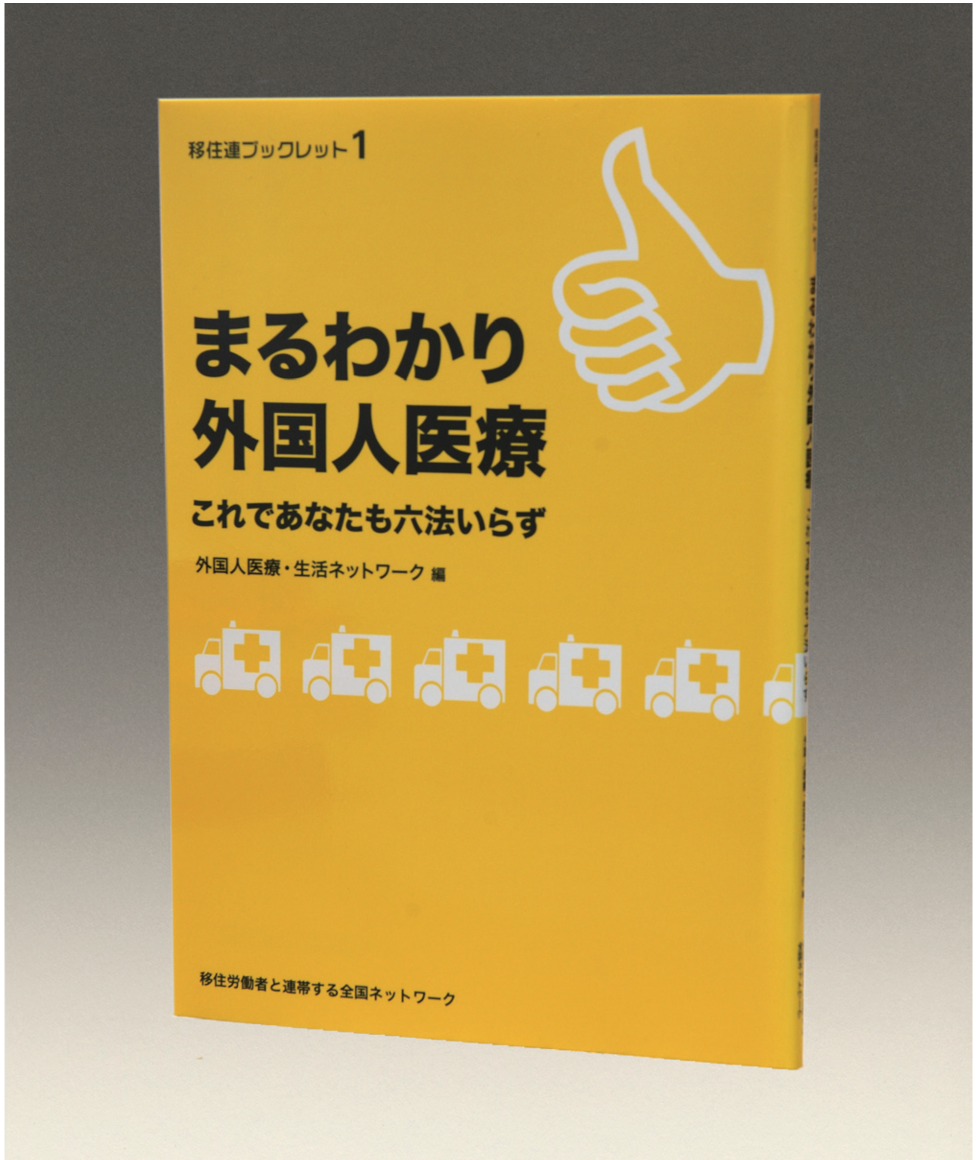
装釘：大熊肇（tonan）



外国人研修生 時給300円の労働者 2

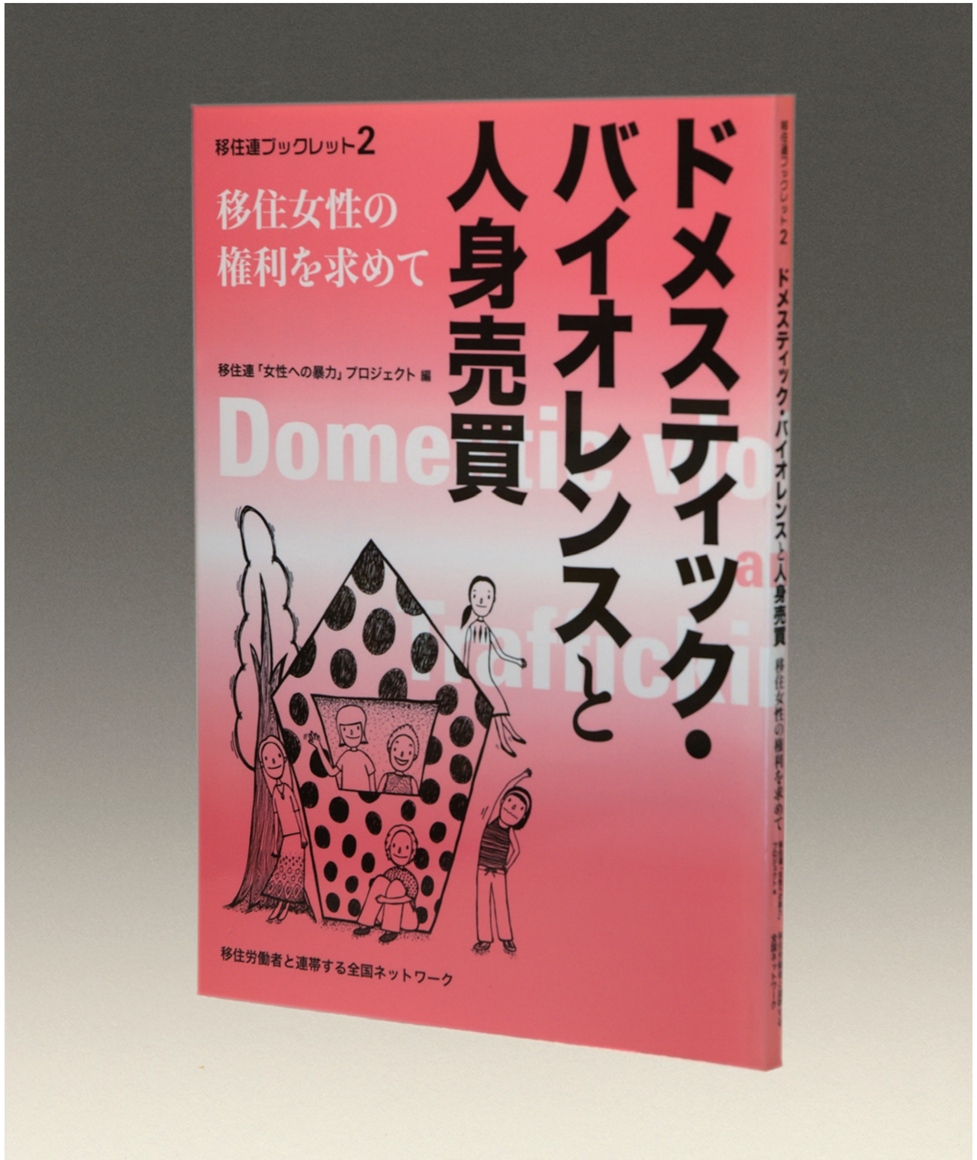
明石書店　2006

装釘：大熊肇（tonan）



まるわかり外国人医療　移住労働者と連帯する全国ネットワーク　2004

組版設計・DTP組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）

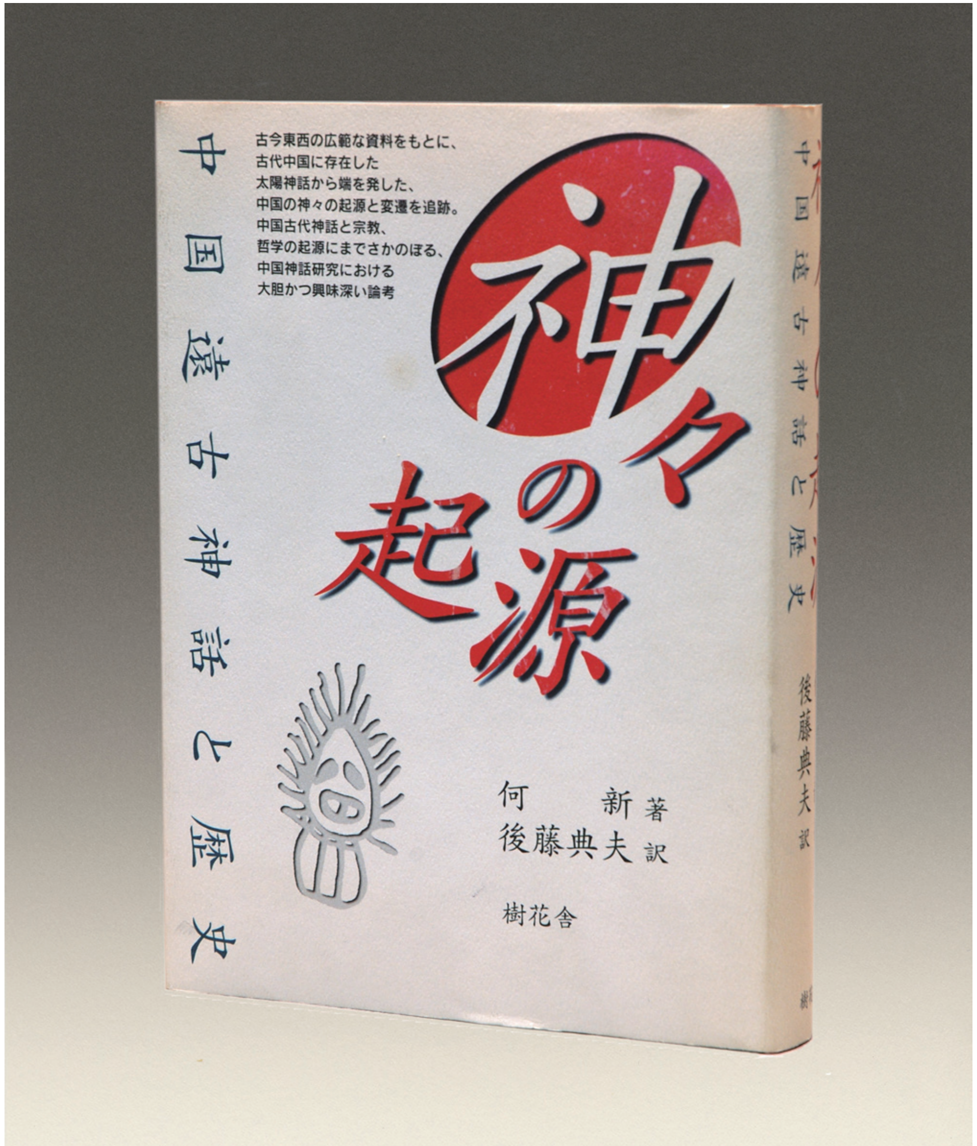


ドメスティックバイオレンスと人身売買

移住労働者と連帯する全国ネットワーク　2004

組版設計・DTP組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）

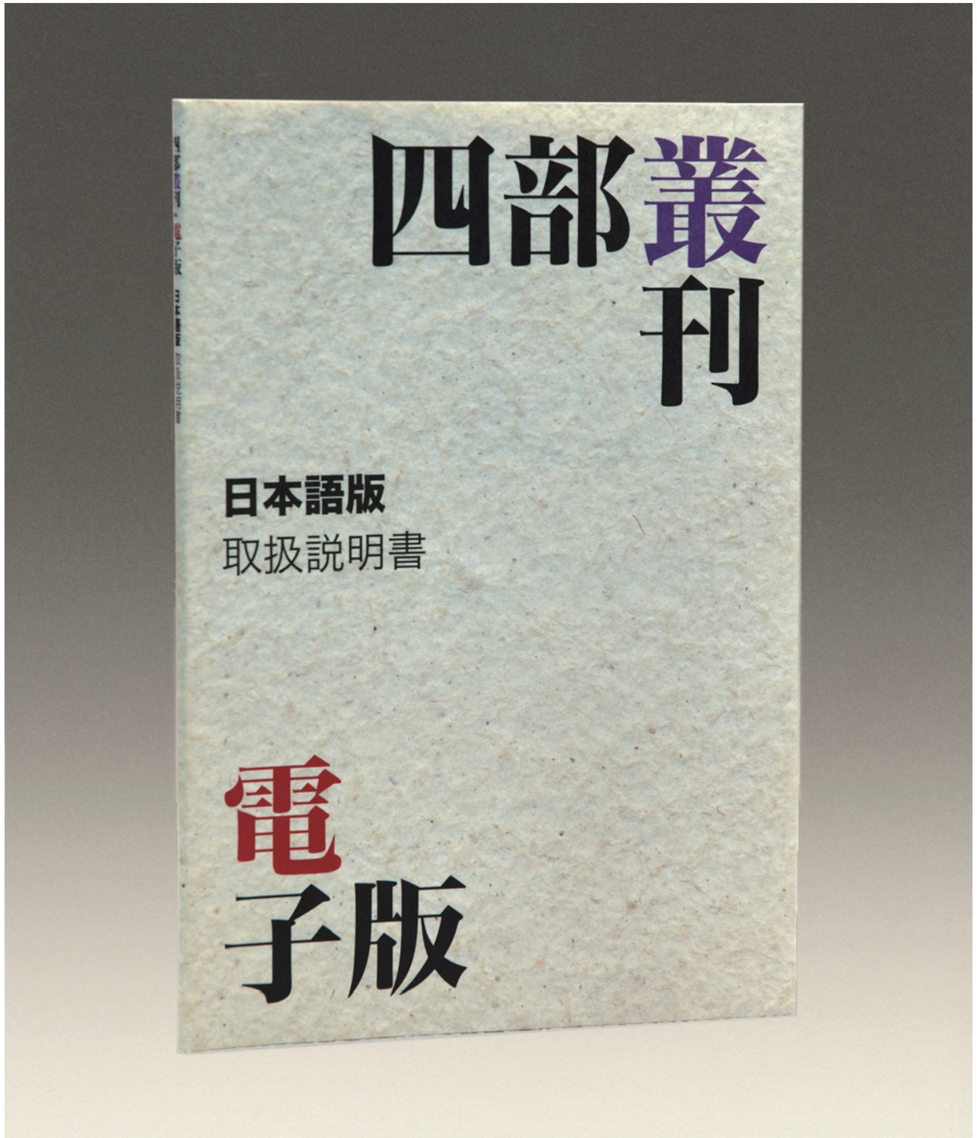
再就職支援会社全ガイド　深田洵二著　実業の日本社　2003



神々の起源　何新著　樹花舎　1998

組版設計・DTP 組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）

組版設計・装釘：大熊肇（tonan）　作字：中妻祐子（tonan）



四部叢刊 電子版 日本語版 取扱説明書

北京書同文数字化技術有限公司　（株）カイテル　西岡漢字情報工学研究所　2003

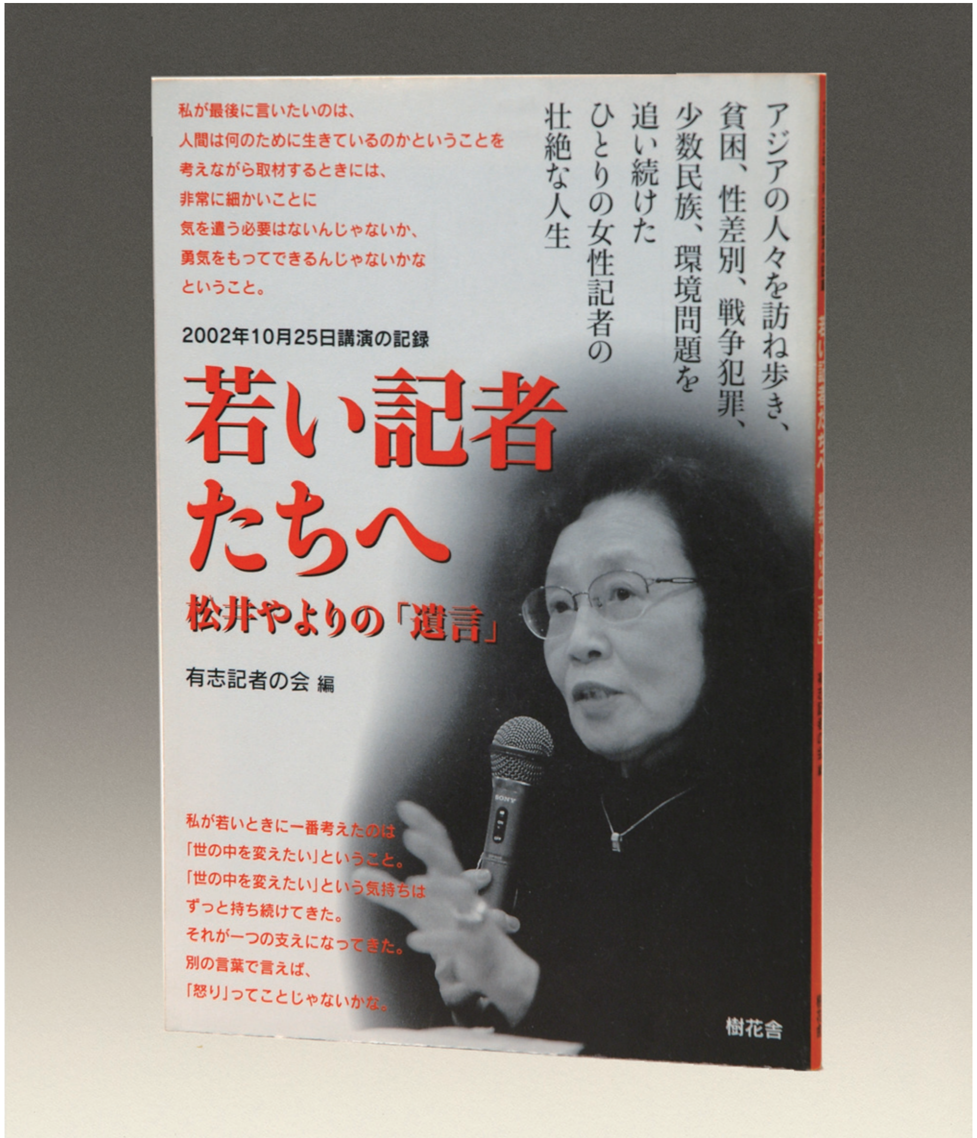
『四部叢刊』は、1919年から1925年にかけて刊行された漢籍「善本」の大型コレクション。477種3134冊、総ページ数232,478ページ、字数9千万余りに上る。『四部叢刊電子版 日本語版』はその完全電子版の日本語版。正確、迅速な「全文検索」、「分類検索」が特色。

組版設計・DTP組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）

ありがとう　服部サク子著　自費出版　1997

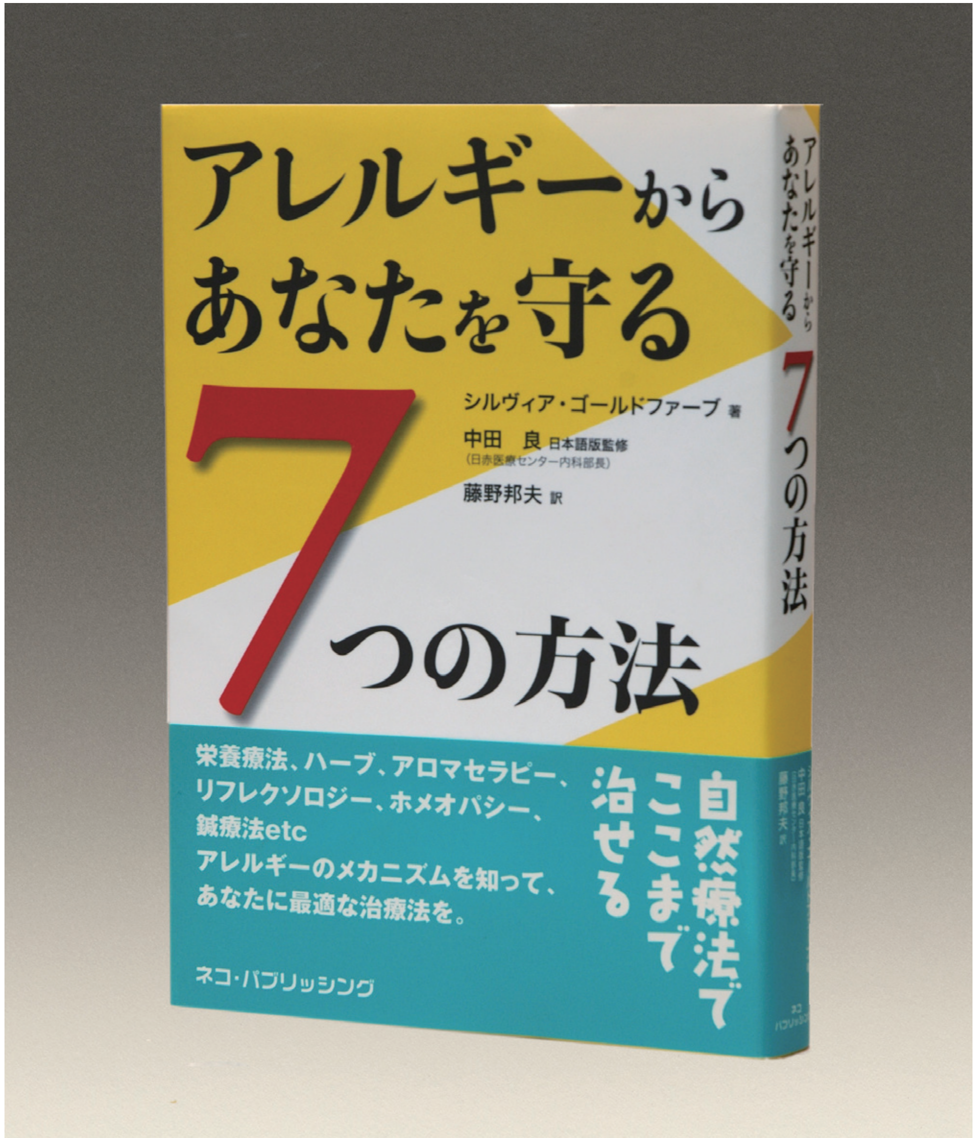
自費出版を馬鹿にしていた大熊の認識を改めさせた本。
夫の事故と事業の失敗、借金取りに居留守を使う毎日、夫の死、子育て、慣れない水商売、再婚などの体験が飾らない文体で切々と綴られている。組版をしながら、「人それぞれにこんな物語があるのか」と涙が出そうになった。

組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）



若い記者たちへ　有志記者の会編　樹花舎　2003

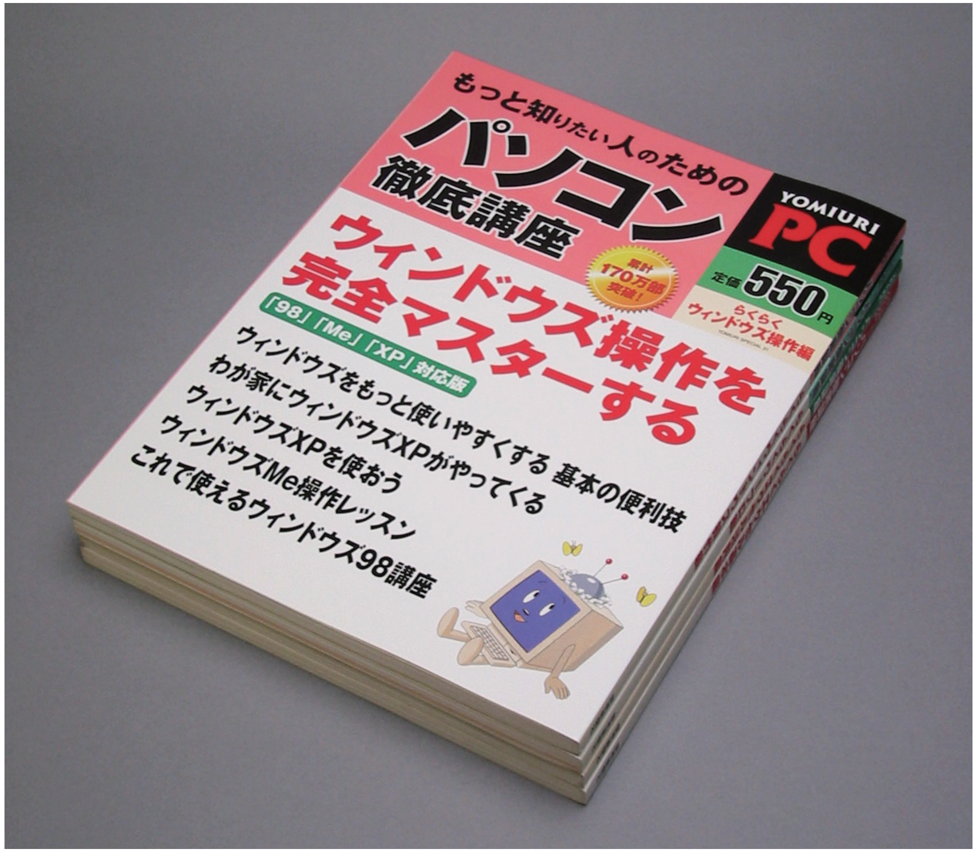
あるNGOのメーリングリストで、集会に必要な予算が足りないのだが、某団体から助成金をもらっていいか、というメールに、大熊が「もらってもいいでしょう。汚い金をきれいに使いましょう」と返信したところ、松井やよりさんから、「アジアの人たちから搾取したお金で、アジアの人の集会ができますか」と猛烈にしかられた。松井さんの悲報を聞いて、このブックレットの仕事を買って出た。　組版設計・DTP組版・装釘：大熊肇（tonan）



アレルギーからあなたを守る7つの方法

シルヴィア・ゴールドファーブ著　ネコパブリッシング　2002

組版設計・DTP組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）



パソコン徹底講座

読売新聞社

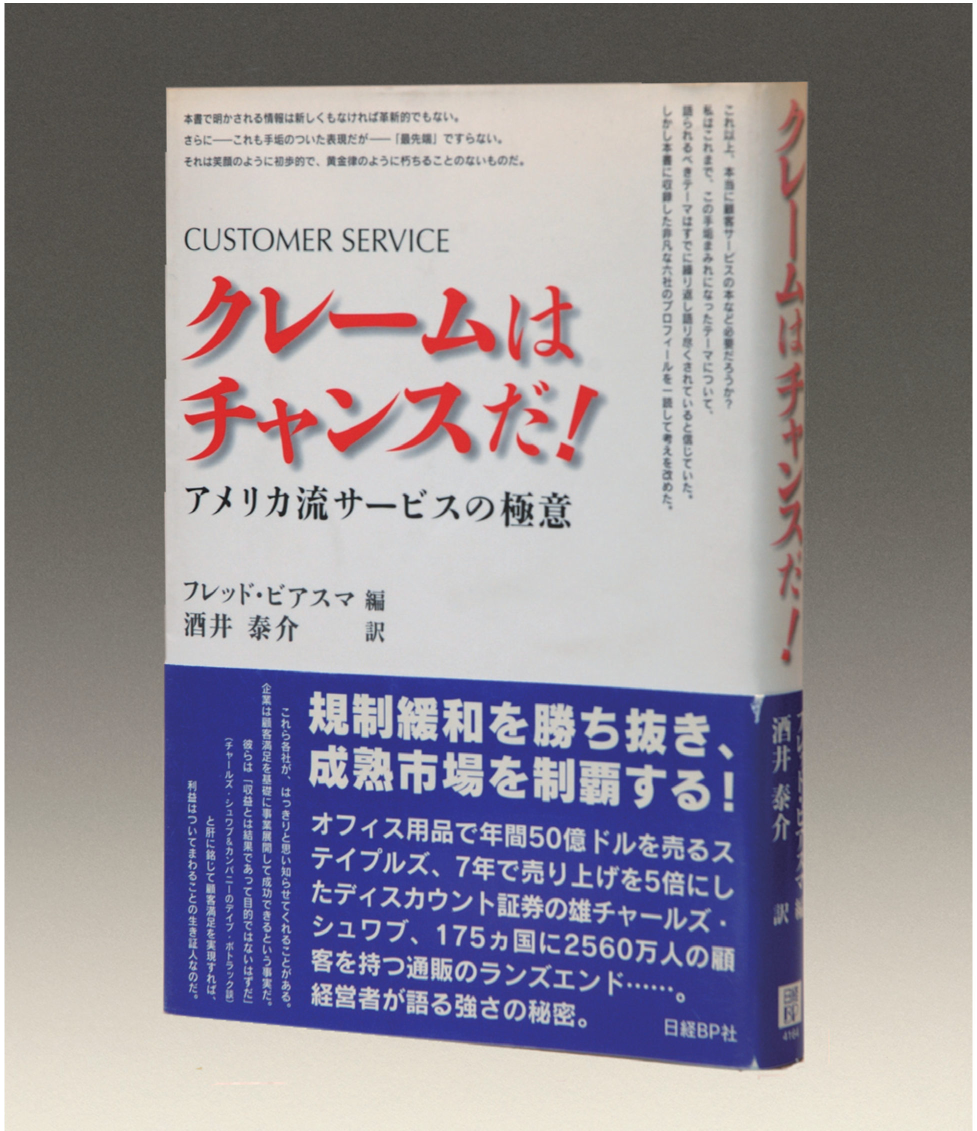
「YUMIURI PC」の連載の中で、人気が高かった特集を集めたムック。
基本的に雑誌からの流用だが、アプリケーションの進化が早すぎて、ムックにするときには、内容や画像が古くなっているので、全ページをオペレーションし直す必要がある。今までに10数冊出版されており、そのすべてを大熊が担当している。

本文オペレーション・表紙デザイン:大熊肇（tonan）

検索名句秀句

村石利夫著　小学館文庫　2002

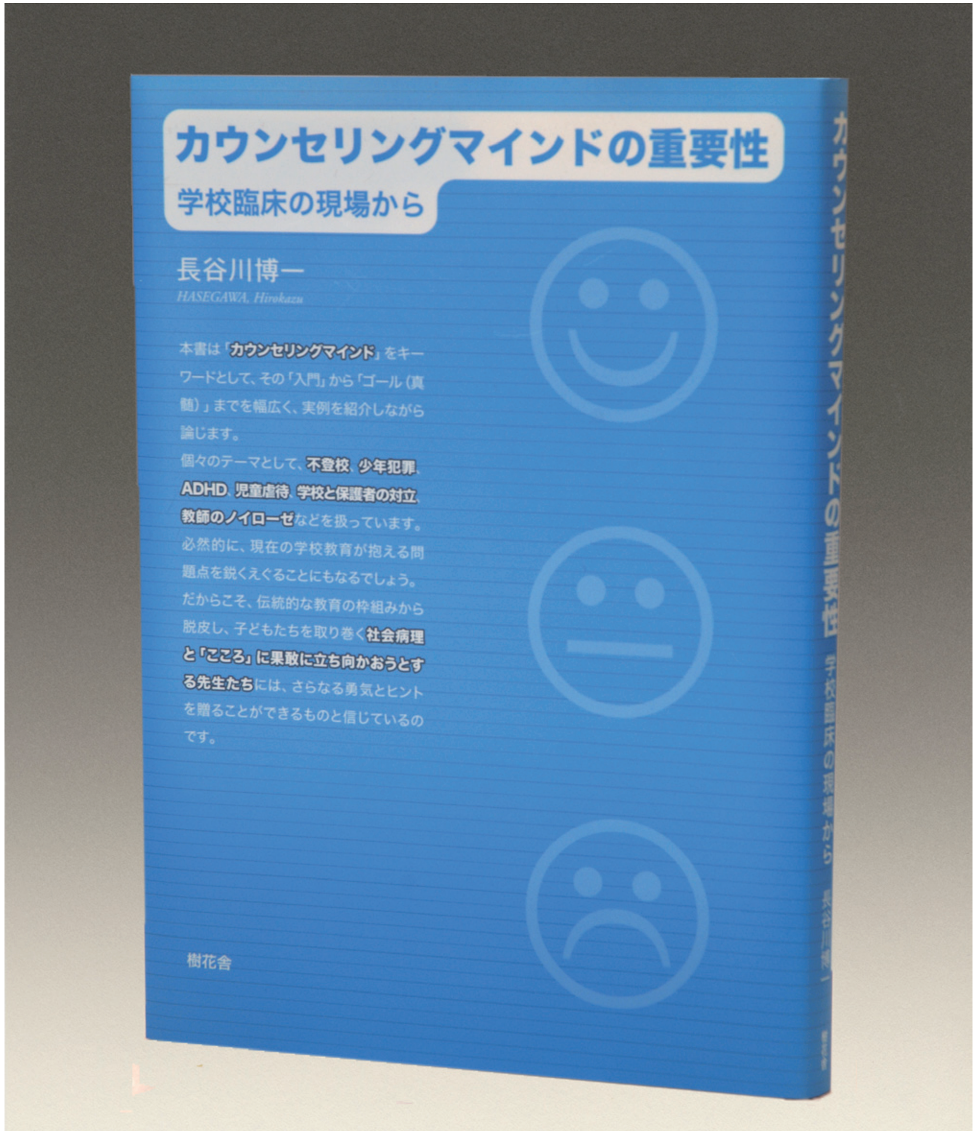
組版設計・DTP組版：中妻祐子（tonan）　装釘：大熊肇（tonan）



クレームはチャンスだ！

フレッド・ビアスマ編　酒井泰介訳　日経BP社　1999

装釘：大熊肇（tonan）



カウンセリングマインドの重要性

長谷川博一著　樹花舎　2004

装釘：大熊肇（tonan）

二一世紀の社会と学校

二宮皓編著　協同出版　2000

装釘：大熊肇（tonan）

墨に生きるむかし絵ばなし

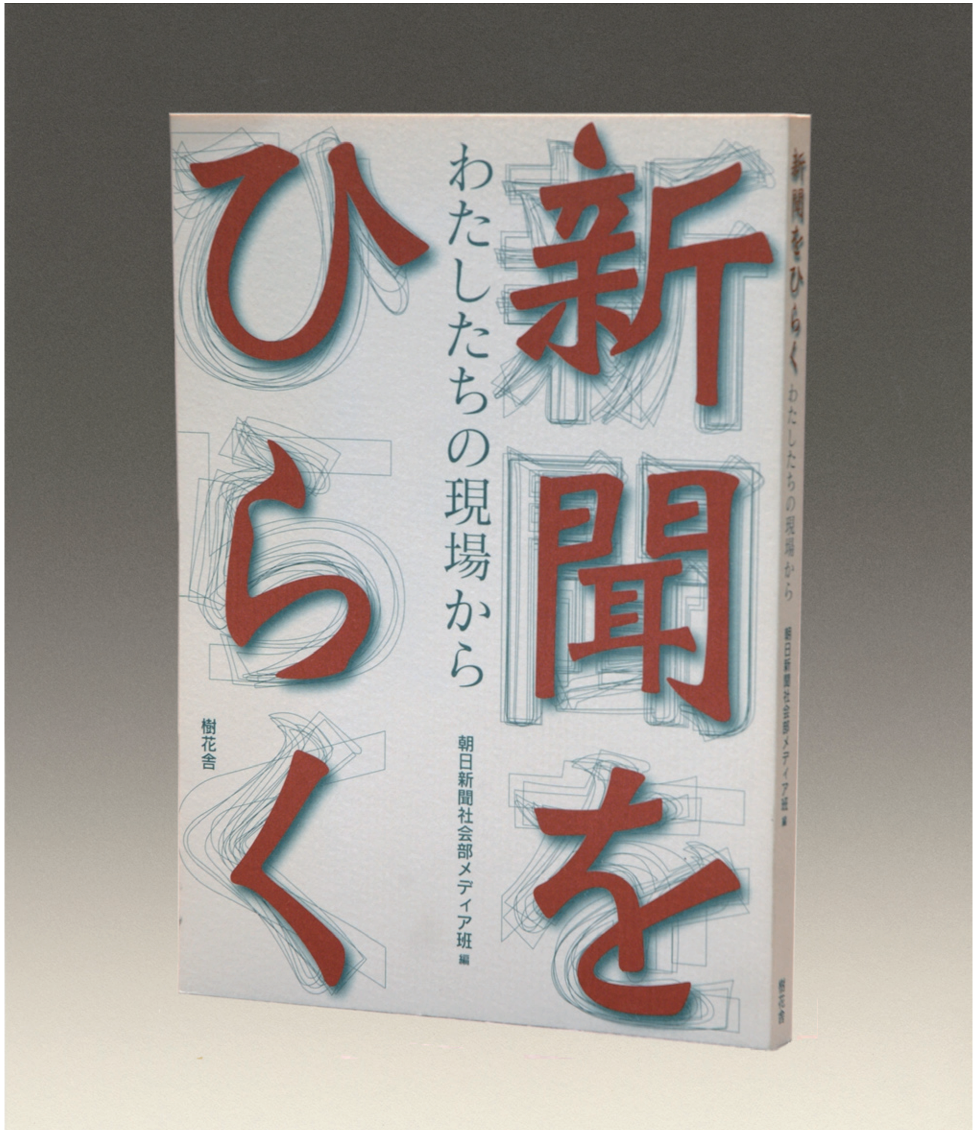
松下紀久雄　日貿出版社　1989

装釘：大熊肇（tonan）

江戸深川華づくし

中山幹雄　読売新聞社　1996

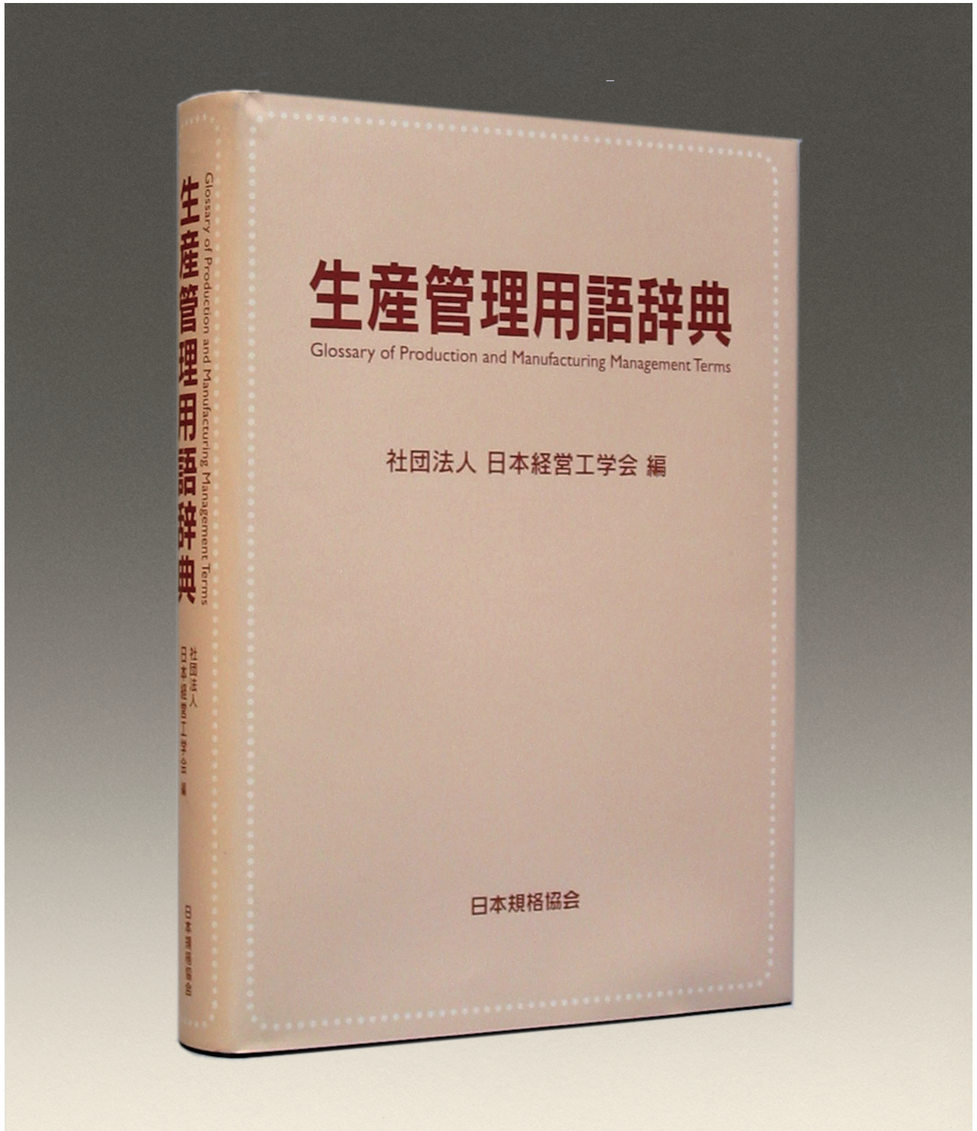
装釘：大熊肇（tonan）



新聞をひらく

朝日新聞社社会部メディア班編　樹花舎　1999

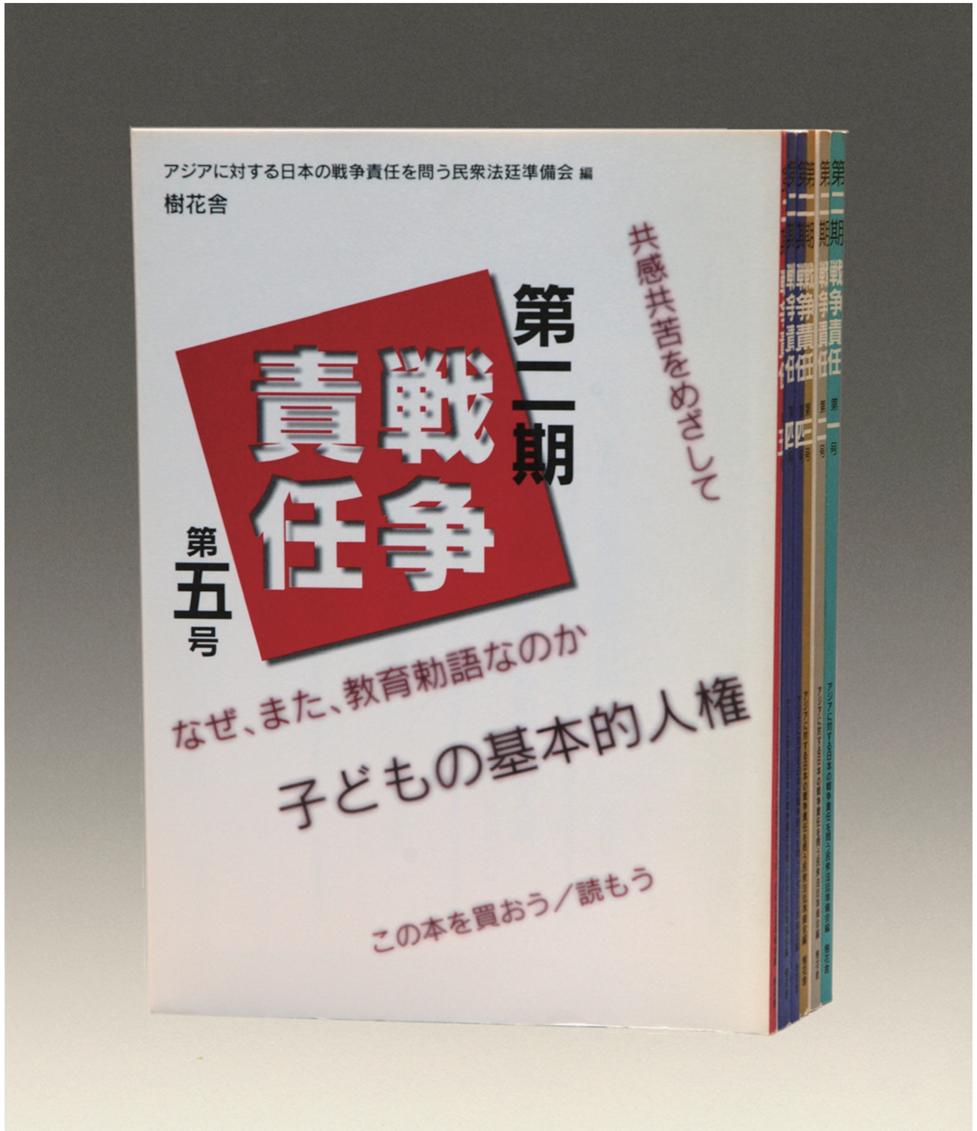
装釘：大熊肇（tonan）



生産管理用語辞典

社団法人日本経営工学会編　日本規格協会　2002

装釘：大熊肇（tonan）



第二期 戦争責任

アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆法廷準備会編　樹花舎　1998～2001

装釘：大熊肇（tonan）

有限会社トナン　大熊肇＋中妻祐子

埼玉県春日部市中央6-3-15　〒344-0067
tel: 048-733-1252 fax: 048-733-1247
http://www.tonan.jp
hajime@tonan.jp